



# 元総社蒼海遺跡群 (34)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 1 1. 3

前橋市教育委員会



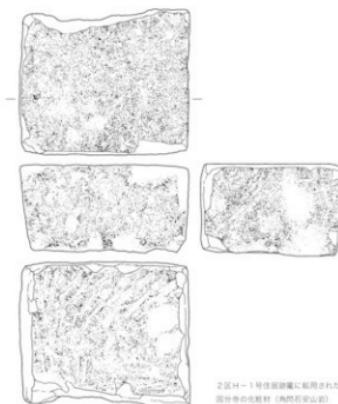






# 元総社蒼海遺跡群(34)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書



図H-1号住居跡に転用された  
圓分寺の化粧材(馬鹿石安山岩)

2 0 1 1. 3

前橋市教育委員会





元總社舊海遺跡群（34）調査区全景（上が北）



調査区全景（東から）



調査区全景（南から）



## はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中核として栄えました。また、続く律令時代になってからは總社・元總社地区に山王庵寺、國分僧寺、國分尼寺、國府など上野国の中核をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、諸代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる腰橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元總社蒼海遺跡群（34）は古代上野国の中核地域の調査であります。上野国府推定地域に隣接することから、調査成果に多くの注目を集めています。今回の調査では、国府そのものに関連する遺構の検出はかないませんでしたが、奈良・平安時代の堅穴住居跡、中世の堀跡等を検出しました。

今は一本の糸に過ぎない調査成果も織り上げて行けば、国府や国府のまちの姿を再現できるものと考えております。

残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができます。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、関係機関や各方面のご配慮の結果といえます。また、猛暑の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 23 年 3 月

前橋市教育委員会  
教育長 佐藤博之



## 例　　言

- 1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴う元総社蒼海道路群（34）発掘報告書である。
- 2 発掘調査の要項は次の通りである。

遺跡名	元総社蒼海道路群（34）
調査場所	前橋市元総社町 1694 - 1 ほか
遺跡コード	22 A 130 - 34
発掘・整理担当者	瀬田哲夫（技研測量設計株式会社）
発掘調査期間	平成 22 年 7 月 9 日～9 月 10 日
整理・報告書作成期間	平成 22 年 9 月 13 日～平成 23 年 3 月 11 日
- 3 本書の原稿執筆は I を神宮 聰（前橋市教育委員会）、II を佐野良平（技研測量設計株式会社）、他を瀬田が担当した。
- 4 本書は挿図・図版を含む全ての記録をデジタル化して編集し、DTP による組版作業を行った。作業は前田和昭（技研測量設計株式会社）が担当した。
- 5 発掘調査、及び整理作業参加者は次の通りである。

鈴木 洋	山田誠司	大川明子	（技研測量設計株式会社）					
石田てい子	稻敷美枝子	内嶋勝義	岡野 茂	長田友香	女屋みどり	木暮孝一	佐藤和彦	佐藤初子
佐藤文江	佐藤政雄	篠田貞子	高橋一巳	瀧澤佳子	竹澤賢司	田部井美穂子	角田耕二	角田澄雄
西潟 登	羽鳥千鶴子	平野ミフ子	福島裕子	水野さかあ	湯浅澄子	吉田文江		
- 6 本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 7 下記の諸氏・諸機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。（順不同、敬称略）

山下工業株式会社

## 凡　　例

- 1 插図中に使用した北は座標北である。
- 2 插図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。
- 3 造構名称は、堅穴住居跡：H、堅穴状造構：T、溝：W、土壤墓：D B、土坑：D、ピット：P、その他：X である。
- 4 造構・遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図スケールを参照されたい。

道構	堅穴住居跡	堅穴状造構	土坑	ピット	その他	・・・	1/60	電	土壤墓	・・・	1/30	溝	・・・	1/100	
全体図	・・・	1/400													
- 5 本文および表中の計測値については〔 〕は現存値を、〔 〕は復元値を表す。
- 6 造構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

造構	焼土範囲：	[■]	灰範囲：	[■]	粘土範囲：	[■]		
遺物	須恵器（還元焰）：	[■]	灰釉陶器：	[■]	油煙・煤：	[■]	石器磨面：	[■]
- 7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B	（浅間 B 軽石：1108）	、Hr-FP	（榛名二ヶ岳伊香保テフラ：6 世紀中葉）、
Hr-FA	（榛名二ヶ岳洪川テフラ：6 世紀初頭）	、As-C	（浅間 C 軽石：3 世紀後葉～4 世紀前半）



## 目 次

巻頭図版1  
巻頭図版2  
はじめに  
例言・凡例

I	調査に至る経緯	1
II	遺跡の位置と環境	2
III	調査の方針と経過	7
IV	基本層序	7
V	遺構と遺物	9
VI	まとめ	44

## 挿図目次

Fig 1	道路位置	1
Fig 2	周辺道路図	3
Fig 3	元紀村真海道路群位置図とグリッド設定図	6
Fig 4	基本層序	7
Fig 5	調査区全体図	8
Fig 6	1区H-1～3・5号住居跡	11
Fig 7	1区H-4号住居跡	12
Fig 8	1区H-6～8号住居跡、T-1号堅穴状遺構、P-1号ビット	13
Fig 9	1区出土遺物(1)	13
Fig 10	1区出土遺物(2)	14
Fig 11	2区H-1号住居跡	22
Fig 12	2区H-2号住居跡	23
Fig 13	2区H-2号住居跡	24
Fig 14	2区H-3号住居跡	25
Fig 15	2区H-4～5号住居跡	26
Fig 16	2区H-6～7号住居跡	27
Fig 17	2区H-8～10号住居跡	28
Fig 18	2区H-10号住居跡、T-1～4号堅穴状遺構、W-1号溝	29
Fig 19	2区W-2～5号溝	30
Fig 20	2区W-6～13号溝	31
Fig 21	2区DB3～3号土壙墓、D-1～10号土坑	32
Fig 22	2区D-11～26号土坑、P-1～6号ビット	33
Fig 23	2区P-7～12号ビット、X-1～3号跡、及D-1号住居跡出土遺物	34
Fig 24	2区H-2～3号住居跡出土遺物	35
Fig 25	2区H-4～7号住居跡出土遺物	36
Fig 26	2区H-8～10号住居跡、T-1～3号堅穴状遺構、W-2～3・5・8・9号溝出土遺物	37
Fig 27	2区W-10～13号溝、DB-1～3号土壙墓出土遺物	38
Fig 28	2区D-3～4・8・9・10・15～21・24号土坑出土遺物	39
Fig 29	2区D-24・26号土坑、P-1号ビット、X-1号跡出土遺物	40
Fig 30	遺構外出土遺物	43

## 表目次

Tab. 1	周辺道路一覧表	4～5
Tab. 2	1区ビット・土坑計測表	10
Tab. 3	1区出土遺物観察表	14
Tab. 4	2区ビット・土坑計測表	22
Tab. 5	2区出土遺物観察表	40～43
Tab. 6	遺構外出土遺物観察表	43

## 写真図版目次

PL 1	1区全景、2区全景	
PL 2	1区H-1～8、T-1	
PL 3	2区H-1～3、H-5	
PL 4	2区H-4、H-7～10	
PL 5	2区H-6、X-1～3、T-1～4	
PL 6	2区W-1～8	
PL 7	2区W-9～13、DB-1～3	
PL 8	2区D-1～15	
PL 9	2区D-16～26、作業風景	
PL 10	1区・2区堅穴住居跡出土遺物	
PL 11	2区堅穴住居跡、堅穴状遺構、清出遺物	
PL 12	2区溝、土壙墓、土坑、ビット、遺構外出土遺物	





## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴い実施され、11年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

平成22年6月3日付けで前橋市長 高木政夫（区画整理第二課）より前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務依頼が前橋市教育委員会に提出された。教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成22年6月24日付けで前橋市と民間調査組織である技研測量設計株式会社 代表取締役社長 畠田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査を開始した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群(34)」（遺跡コード：22A130-34）の「元総社蒼海」は区画整理事業名を採用し、数字の「(34)」は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。



Fig.1 遺跡の位置



## II 遺跡の位置と環境

**遺跡の位置** (Fig. 1) 本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社地内に所在し、西約0.7kmには関越自動車道が南北に、南には国道17号・主要地方道前橋・群馬・高崎線が東西に、また東約0.5kmには市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査地の立地する地形は、前橋台地上、桜名山麓を源にする牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地との比高3~5mを測る。遺跡が立地する台地上は主として桑畠などの畠地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にある。

**歴史的環境** (Fig. 2, Tab. 1) 本遺跡が立地する元総社地域には上野国府推定地や上野国分寺を中心に連続と遺跡が広がる地域である。周辺では関越自動車道建設や区画整理事業等に伴う発掘調査が行われており、多くの遺物・遺構が確認されている。本遺跡周辺地域における時代ごとの遺跡の概要是以下の通りである。

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地に産業道路東〔15〕・産業道路西〔16〕・總社閑泉明神北Ⅲ遺跡〔61〕・本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕・元総社小見Ⅲ遺跡〔59〕・元総社蒼海遺跡群〔24〕などが挙げられ、堅穴住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡〔18〕・〔19〕・上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕・正觀寺遺跡〔21〕等があるがその分布は散漫である。

古墳時代になると本遺跡周辺の区域は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。それを示すものとして總社古墳群が挙げられ、古墳時代後期・終末期に至り、王山古墳〔7〕・二子山古墳〔12〕・愛宕山古墳〔10〕・宝塔山古墳〔13〕・蛇穴山古墳〔8〕等の首長墓が多数築造された。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府・國分寺〔2〕・國分尼寺〔3〕・山王庵寺〔4〕の建設に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域におよそ900m四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡〔14〕・元総社寺田遺跡〔43〕・元総社宅地遺跡〔55〕などがある。また元総社明神遺跡〔24〕では南北方向の溝跡、閑泉桶遺跡〔25〕では東西方向の大溝が確認され、国府城の東外郭線が想定された。

國分寺は昭和55年以降の調査により、主要伽藍の礎石、塀垣、堀等が確認されている。國分尼寺は昭和44・45年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成12年度試掘調査、元総社蒼海遺跡群〔20〕が行われた。調査の結果、南大門想定位置の前面で瓦敷遺構等が確認されている。関連遺跡として中尾遺跡〔17〕・鳥羽遺跡〔20〕・上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕などが挙げられる。

山王庵寺は昭和3年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和49~56年にかけて7次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」梵書の平瓦出土により山王庵寺が「山ノ上碑」「上野交替実錄帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。また平成9~11年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成18・19年の調査では北・東・西面の回廊を検出している。

また本遺跡の南約1.5kmにはN~64°-E方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡〔19〕では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。これらは当時の交通網を物語る重要な遺構である。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋~元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷を巡らした城館跡が数多く認められる。

天正年間以降は源氏・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、秋元氏が總社城に移ると同時に蒼海城は廢城となった。

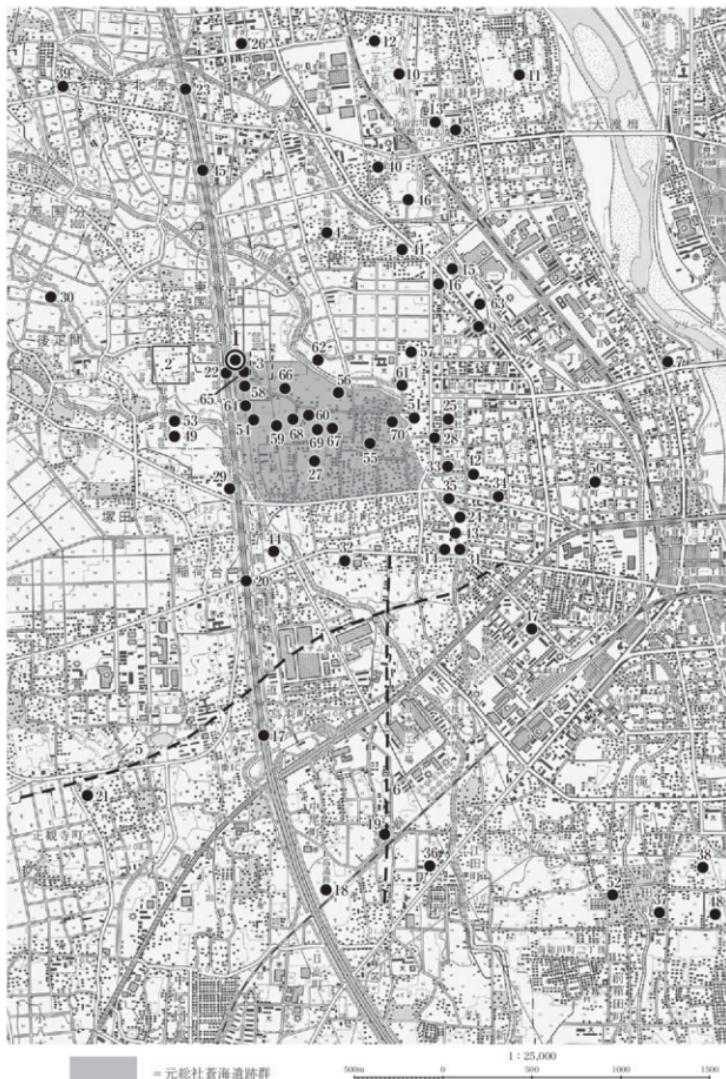


Fig. 2 周辺遺跡図



Tab. 1 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代・主な遺物・出土物
1	穴門式古墳群（第1群）	2010	小森跡
2	上野原分石塚（第2群）	1980-98	奈良、平安後期・鎌倉期
3	上野原分石塚	1990	奈良、西高瀬、東山高瀬川
4	山王寺寺跡	(1974)	奈良、飛鳥墳、磐石石、金堂基壇、御前塀石
5	那山寺（復元）	-	-
6	日吉社（復元）	-	-
7	山王寺	1972	古墳・前方後円墳（6.6m×7.5m）
8	鶴穴式古墳	1973	古墳・方墳（8.4m）
9	鶴穴式古墳	1988	古墳・円墳（6.4m）
10	愛宕山式古墳	1996	古墳・円墳（7.4m）
11	須坂式古墳	-	-
12	須坂式子孫古墳	-	-
13	須坂式古墳	-	-
14	穴門式古墳（第3群）	1962	平安・新井口式埴輪・柱穴陶・須坂跡
15	須坂式古墳	1990	須坂式古墳
16	須坂式古墳	-	-
17	穴門式古墳（第4群）	1978	奈良・平安・住居跡
18	丘陵式古墳（第5群）	1977	古墳・丘陵式・前方後円墳・須坂跡・木製轡具・平安・条纹斜面土出現
19	丘陵式古墳（第6群）	(1970)	古墳・丘陵式
20	須坂式古墳（第7群）	1978-83	古墳・須坂式・須坂跡・奈良・平安・立柱跡・須坂式埴輪・須坂跡
21	正規立筒墓（1号・2号）	1979-81	古墳・立筒墓（1号・2号）・須坂跡・奈良・平安・柱足陶・中央・須坂
22	上野原分石塚・尼寺分合古墳（事業用）	1980-83	須坂・右肩付・靴石・須坂跡・古墳・柱足陶・前方後円墳・内径・須坂跡・奈良・平安・住居跡・新井口式埴輪・中央・柱足陶物・須坂遺跡・足跡状遺像
23	足早原の古墳群（西側）	1982	須坂・土器・輪・須坂跡・云・須坂跡・平安・日笠跡・新井口式埴輪
24	穴門式古墳群（1号～2号）	1982-96	古墳・穴門式・須坂跡・須坂・奈良・平安・住居跡・須坂・中世・須坂跡・須坂
25	須坂式古墳	1983	奈良・平安・須坂
26	鶴木式古墳・主要群	1983-1988	古墳・平安・住居跡・須坂
27	丘作式古墳	1984	古墳・丘作式・平安・住居跡・中世・須坂
28	須坂式古墳	1985	-
29	須坂式古墳（復元用）	1985	平安・住居跡
30	須坂式古墳（1号・復元用）	1985-87	古墳・須坂式・須坂・奈良・平安・住居跡・中世・近鉄近道施設
31	穴門式古墳	1986	平安・須坂
32	穴門式古墳・主要群	1986-88	古墳・穴門式・須坂・奈良・平安・住居跡・中世・須坂・右肩付陶
33	須坂式古墳	1986	平安・須坂
34	須坂式古墳	1987	古墳・平安・住居跡・須坂
35	人丸式須坂・須坂	1987	古墳・人丸式・須坂・平安・住居跡・須坂・地下式土坑
36	圓丘式古墳	1987	平安・須坂
37	村屋式古墳	1987	平安・須坂・木枕跡
38	穴門式古墳	1987	古墳・穴門式
39	須坂式古墳	1988	須坂・平安・住居跡・須坂
40	村屋式古墳	1988	古墳・須坂・須坂・平安・日笠跡・須坂
41	丘作式古墳群・須坂跡	1988	奈良・平安・住居跡
42	須坂式古墳	1988	平安・住居跡
43	穴門式古墳群（1号～2号）（事業用）	1988-91	古墳・穴門式・須坂・奈良・平安・住居跡・中世・須坂
44	須坂式古墳	1989	平安・住居跡
45	須坂式古墳・主要群	1989-95	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡
46	須坂式古墳（事業用）	1990	須坂・須坂・奈良・平安・住居跡
47	須坂式古墳	1991	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡
48	須坂式古墳（復元用）	1991	古墳・須坂・須坂・奈良・平安・住居跡・須坂・中世・土壤層
49	人丸式古墳・1号	1991-2000	須坂・人丸式・須坂・須坂・奈良・平安・住居跡・須坂・地下式土坑・須坂
50	穴門式古墳	1993	須坂・穴門式・須坂・須坂
51	須坂式古墳	1995	平安・須坂
52	須坂式古墳	1995	古墳・須坂・須坂・須坂・中世・須坂
53	須坂式古墳	1995	古墳・須坂・須坂・平安・須坂
54	穴門式古墳	2000	須坂・穴門式・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂式埴輪・須坂遺跡・須坂
55	穴門式古墳（2トーレン）	2000	古墳・穴門式・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・須坂式埴輪・須坂・中世・須坂・須坂
56	穴門式古墳内須坂	2001	古墳・穴門式・須坂・須坂・平安・日笠跡・穴門式埴輪・須坂・中世・須坂式埴輪・須坂
57	須坂式古墳内須坂	2001	奈良・平安・須坂・須坂・中世・須坂・須坂・元世・須坂
58	須坂式古墳内須坂	2001	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・元世・須坂
59	須坂式古墳内須坂	2001	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・中世・須坂
60	須坂式古墳内須坂	2002	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・中世・土壤層
61	須坂式古墳内須坂	2002	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・中世・須坂
62	須坂式古墳内須坂	2002	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・中世・須坂・須坂
63	須坂式古墳内須坂	2002	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・中世・須坂
64	須坂式古墳内須坂	2002	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・中世・須坂
65	須坂式古墳内須坂	2002	古墳・須坂・須坂・平安・住居跡・須坂・中世・須坂
66	須坂式古墳内須坂	2003	古墳・須坂・須坂・須坂・中世・須坂
67	須坂式古墳内須坂	2003	古墳・須坂・須坂・須坂・中世・須坂
68	須坂式古墳内須坂	2004	古墳・須坂・須坂・中世・須坂
69	須坂式古墳内須坂	2004	奈良・平安・住居跡・須坂・中世・須坂



编号	调查名称	调查年度	时代：主文化层/出土遗物
01	元祐村小见内古道路	2004	古墳、良引耕、良兵、平安、良引耕、工字形砖、黏土堆积层、中空、道路、上层Ⅲ
02	元祐村新海道路古道路	2004	古墳、良引耕、良兵、平安、良引耕
03	元祐村新海道路（1）	2005	良兵、平安、良引耕、良兵、平安、良引耕
04	元祐村新海道路（2）	2005	良兵、平安、良引耕、良兵、平安、良引耕
05	元祐村新海道路（3）-1（元祐村小见古道路）	2005	绳文、住居跡、古墳、住居跡、良兵、平安、良引耕
06	元祐村新海道路（4）	2005	绳文、住居跡、古墳、住居跡、良兵、平安、良引耕
07	元祐村新海道路（5）	2005	古墳、住居跡、良兵、平安、良引耕、绳文、中空、绳文状遗物、上层Ⅲ
08	元祐村新海道路（6）	2005	良兵、平安、良引耕、绳文、中空、道路、上层Ⅲ
09	元祐村新海道路（7）	2005	良兵、平安、良引耕、绳文
10	元祐村新海道路（8）	2006	良兵、平安、良引耕、绳文
11	元祐村新海道路（9）-1~10	2006	绳文、住居跡、古墳、良引耕、良兵、平安、聚落状遗物、绳文状遗物、道路、上层、中空、道路
12	元祐村新海道路（11）	2006	古墳、住居跡、良兵、平安、良引耕、绳文、道路
13	元祐村新海道路（12）	2006	古墳、住居跡、良兵、平安、良引耕、绳文、道路
14	元祐村新海道路（13）	2006	绳文、住居跡、古墳、良兵、平安、良引耕、工字形砖、绳文、中空、道路、上层Ⅲ
15	元祐村新海道路（14）	2006	古墳、住居跡、良兵、平安、良引耕、绳文状遗物、中空、绳文、绳文状遗物、牙印砖
16	元祐村新海道路（15）	2006	良兵、平安、良引耕、绳文、中空、道路
17	元祐村新海道路（16）	2006	良兵、平安、良引耕、绳文、中空、道路
18	元祐村新海道路（17）	2006	古墳、住居跡、良兵、平安、良引耕、绳文状遗物、中空以降、绳文、绳文状遗物、绳文、道路
19	元祐村新海道路（18）	2006	古墳、住居跡
20	元祐村新海道路（19）	2006	古墳、小口断面状堆积、中空、绳文
21	元祐村新海道路（20）	2006	古墳、住居跡、良兵、平安、绳文状遗物、绳文、中空、上层Ⅲ、道路
22	元祐村新海道路（21）	2009	绳文、住居跡、绳文、块状堆积
23	元祐村新海道路（22）	2009	古墳、住居跡、良兵、平安、良引耕
24	元祐村新海道路（23）	2009	古墳、住居跡、平安、上层、中空、新海城的堆积
25	元祐村新海道路（24）	2009	绳文、住居跡、古墳、良引耕、良兵、平安、良引耕、绳文状遗物、中空、方型窑穴、井口砖
26	元祐村新海道路（25）	2009	古墳、住居跡、平安、良引耕、中空、而（一）-（四）の部分で行なった新海城の堆积
27	元祐村新海道路（26）	2009	古墳、住居跡、平安、良引耕、中空、绳文状遗物、中空、绳文状遗物、绳文、绳文状遗物
28	元祐村新海道路（27）	2009	古墳、住居跡、平安、良引耕、中空、绳文状遗物、中空、绳文状遗物

## 参考文献

- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2000 「元祐村小見遺跡」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2001 「元祐村小見内古道路」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2002 「元祐村小見内古道路」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2002 「元祐村小見遺跡、元祐寺草作V遺跡」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2003 「元祐村小見古道路」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2003 「元祐村小見内古道路、越付甲羅障塁大背古道路」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2005 「元祐村小見内古道路、越付甲羅寺佐明井北V遺跡」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2006 「元祐村新海道路（4）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2006 「元祐村新海道路（5）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2008 「元祐村新海道路（10）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2008 「元祐村新海道路（14）」、「19」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2008 「元祐村新海道路（15）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2008 「元祐村新海道路（16）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2008 「元祐村新海道路（18）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2009 「元祐村新海道路（20）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2009 「元祐村新海道路（22）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2009 「元祐村新海道路（23）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2009 「元祐村新海道路（24）」
- 前掲小見滅文化対象遺跡調査団 2009 「元祐村新海道路（25）」



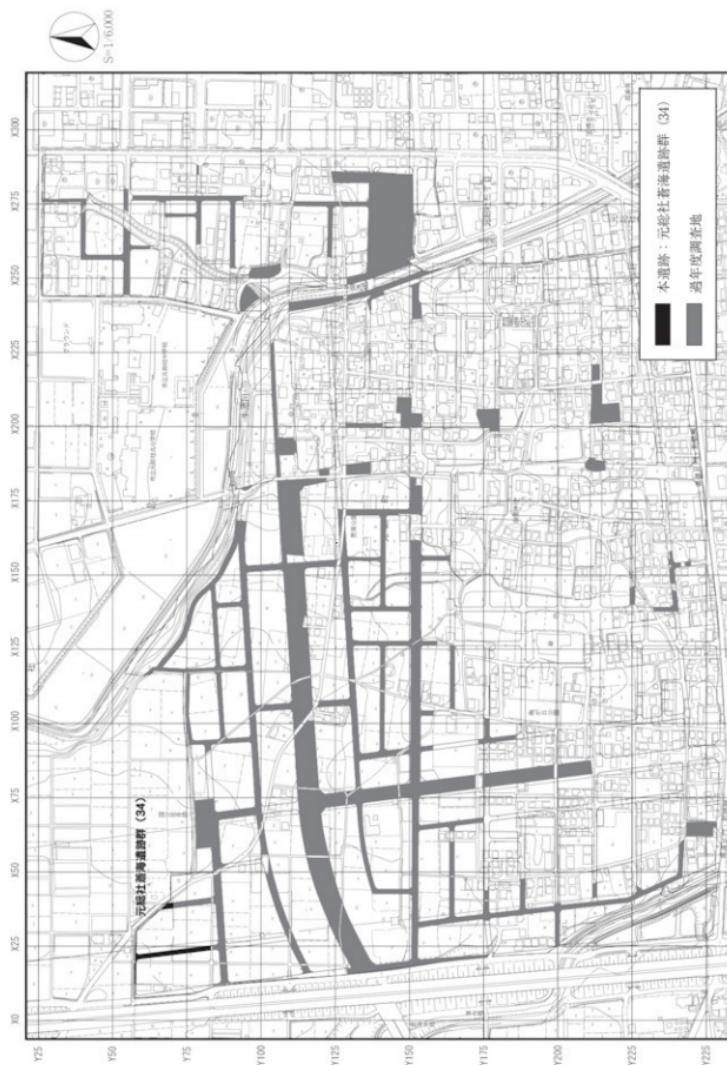


Fig. 3 元総社舊海道跡群位置図とグリッド設定図



### III 調査の方針と経過

#### 1 調査範囲と基本方針 (Fig. 3)

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地で、調査面積は1区約81m<sup>2</sup>、2区約724m<sup>2</sup>で総調査面積は約805m<sup>2</sup>である。グリッド座標については、国家座標（日本測地系）X = +44000.000、Y = -72200.000を基点とする4mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして、北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標については、以下のとおりである。

測点	日本測地系（第IX系）	世界測地系（第IX系）
1区 X 37・Y 65	X = + 43740.000、Y = - 72052.000	X = + 44094.9030、Y = - 72343.7495
2区 X 12・Y 57	X = + 43772.000、Y = - 72152.000	X = + 44126.9031、Y = - 72443.7479

調査は表土掘削、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査に関しては土層の堆積状況を確認するために上層ベルトを堅穴住居跡では主軸方向、土坑・ピット等では長軸方向を基本として設定した。また、堅穴住居跡の遺物に関しては床面直上や住居跡に伴うものはNo遺物とし、他の覆土中の破片は一括遺物として取り上げた。図面作成は、トータルステーションによる測量を主とし、土層断面図は一部、手実測で行っている。写真記録は35mmモノクロ、35mmリバーサル、及びデジタルカメラの3種類を使用した。また、調査区全景写真に関してはラジコンヘリコプターによる空中撮影を実施した。

#### 2 調査経過 (Fig. 5)

本遺跡の発掘調査は、平成22年6月24日付けて業務委託契約を締結し、7月9日より現地での調査を開始した。表土掘削は7月9日～7月22日に行い、1区では現地表下0.50m前後、2区では現地表下0.80～1.00mを重機（バックフォー0.4m<sup>3</sup>）により取り除いた。遺構確認作業は7月20日から、遺構精査は7月21日から開始した。7月22日には方眼杭等を設置し、以降、図面作成作業を随時行った。8月31日に空中写真撮影を行い、その後、基本層序のトレンチ調査等を実施した。調査区埋め戻し作業は9月6日～9月10日である。

整理・報告書作成作業は9月13日より開始した。遺物の水洗い・注記・接合・復元・実測・写真撮影・収納、図面の修正・整理・収納・写真の整理・収納、報告書の国版作成・原稿鉛筆・編集作業等を行い、平成23年3月11日までにすべての作業を終了した。

検出遺構は堅穴住居跡18軒、溝跡13条、土壤墓3基、土坑26基、ピット14口、堅穴状遺構5基、その他3基である。出土遺物は縄文時代の土器・石器、古墳時代の土器、奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器・瓦・土製品・金属製品・石製品・中世・近世の土器・陶磁器等で、コンテナ約8箱である。

### IV 基本層序

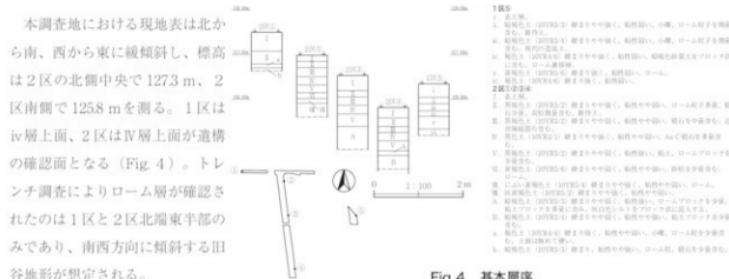


Fig.4 基本層序

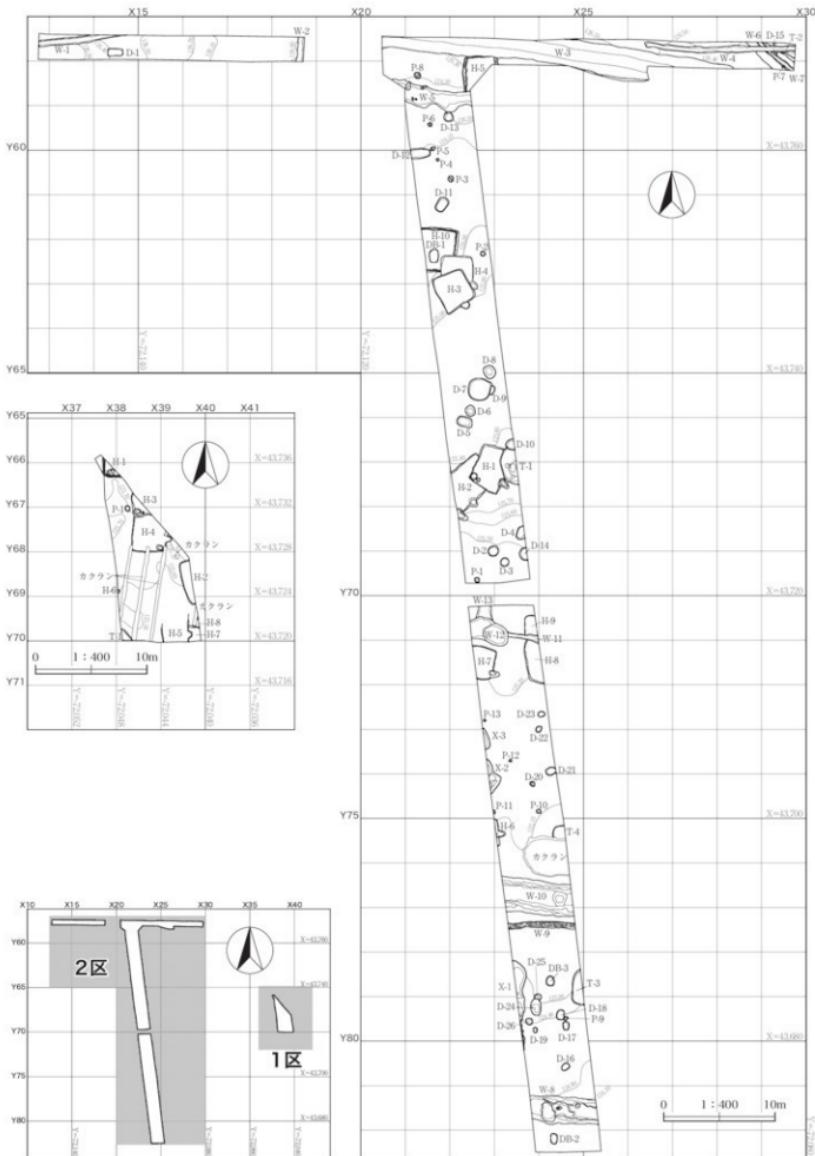


Fig. 5 調査区全体図



## V 遺構と遺物

### 1 1区

#### (1) 穴住居跡

##### H-1号住居跡 (Fig. 6, PL. 2)

位置 X37・38、Y65・66 主軸方向 N - 89° - E 規模 東西軸 [1.58] m、南北軸 [1.84] m、壁現高 0.11 m。南西隅部の検出であり、大半は調査区外となる。面積 [2.93] m<sup>2</sup> 床面 平坦な地山硬化床。竈 検出されず。壁周溝 西壁、南壁に残存し、床からの深さ 3 ~ 6 cm を測る。貯蔵穴 南西隅部で検出。平面は東西に長い楕円形状を呈し、東西 0.62 m、南北 0.52 m、深さ 0.21 m を測る。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 2 点、須恵器 4 点、羽釜 3 点である。図示し得た遺物はない。時期 出土遺物の傾向から 10 世紀前半 ~ 11 世紀前半と想定される。

##### H-2号住居跡 (Fig. 6, PL. 2)

位置 X39、Y68・69 主軸方向 N - 76° - E 規模 東西軸 [0.95] m、南北軸 [4.04] m、壁現高 0.33 m。西端部の検出にとどまり、東部の大半は調査区外となる。面積 [3.43] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山硬化床。竈 検出されず。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 1 点、須恵器 2 点である。図示し得た遺物はない。時期 出土遺物の傾向から 8 世紀代と想定される。

##### H-3号住居跡 (Fig. 6・9, PL. 2・10, Tab. 3)

位置 X38、Y66・67 主軸方向 N - 82° - E 規模 東西軸 [1.38] m、南北軸 [2.24] m、壁現高 0.18 m。西~南部の検出であり、東~北部は調査区外となる。面積 [3.09] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山床で中央部が硬化している。竈 検出されず。貯蔵穴 南西隅部で検出。平面は東西に長い楕円形状を呈し、東西 0.61 m、南北 0.52 m、深さ 0.28 m を測る。ピット 南壁際の西部から検出。平面は南北に長い楕円形を呈し、東西 0.21 m、南北 0.25 m、深さ 0.25 m を測る。住居内施設 床面硬化部分のはば直下から床下土坑を検出した。平面は南北にやや長い楕円形を呈し、東西 0.66 m、南北 0.64 m、深さ 0.30 m を測る。重複 H-4 と重複し、本址が後出である。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 16 点、須恵器 10 点、羽釜 9 点である。図示し得た遺物は Fig. 9 の H-3-1 の羽釜で、覆土出土である。時期 出土遺物の傾向から 11 世紀前半と想定される。

##### H-4号住居跡 (Fig. 7・9, PL. 2・10, Tab. 3)

位置 X38・39、Y67・68 主軸方向 N - 95° - E 規模 東西軸 3.11 m、南北軸 [3.33] m、壁現高 0.14 m。北~北東隅部は調査区外となり、南壁は部分的に搅乱を受けている。面積 [7.64] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山床で竈手前の硬化が顕著である。竈 東壁のやや寄りに位置する。確認長 0.68 m、燃焼部幅 0.63 m を測る。左側袖の構築材には粘土を使用している。貯蔵穴 竈南側の南東隅部で検出。平面は東西に長い楕円形状を呈し、東西 0.59 m、南北 0.41 m、深さ 0.21 m を測る。重複 H-3 と重複し、本址が先行する。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 17 点、須恵器 16 点、灰釉陶器 1 点、瓦 10 点である。図示し得た遺物は Fig. 9 の H-4-1-3 で、1 は須恵器壺、2 は須恵器蓋、3 は土師器環である。1 は床面直上、2 は竈、3 は覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後葉~末葉と想定される。

##### H-5号住居跡 (Fig. 6・10, PL. 2・10, Tab. 3)

位置 X39、Y69・70 主軸方向 N - 85° - E 規模 東西軸 2.43 m、南北軸 [2.50] m、壁現高 0.10 m。北



部は削平により北壁等を失い、南部は調査区外となる。面積 [6.08] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な貼り床で、竈手前の硬化が顕著である。竈 東壁に位置する。確認長 0.82 m、燃焼部幅 0.56 m を測る。左側袖の構築材には粘土を使用している。重複 H-7 と重複し、本址が後出する。出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器 1 点、土師器 13 点、須恵器 22 点、羽釜 2 点、瓦 10 点である。図示し得た遺物は Fig.10 の H-5-1 ~ 9 で、1 ~ 3 は須恵器高台付坏、4 ~ 5 は須恵器坏、6 は羽釜、7 は凹面にヘラによる文字「大」を有する丸瓦、8 ~ 9 は平瓦である。1 ~ 4 ~ 5 ~ 6 は床面直上、2 ~ 3 ~ 7 ~ 9 は竈からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 10 世紀後半と想定される。

#### H-6号住居跡 (Fig. 8, PL. 2)

位置 X39、Y68 主軸方向 N - 85° - E 規模 東西軸 [0.18] m、南北軸 [0.51] m、壁現高 0.26 m。竈の部分的な検出であり、住居主体は調査区外である。面積 不詳 床面 不詳 竈 東壁に位置する。確認長 [0.35] m、燃焼部幅 0.39 m を測る。袖の構築材には粘土を使用する。出土遺物 なし。時期 不詳。

#### H-7号住居跡 (Fig. 8, PL. 2)

位置 X39、Y69-70 主軸方向 N - 85° - E 規模 東西軸 [2.04] m、南北軸 [1.43] m、壁現高 0.35 m。東 ~ 南部は調査区外となる。面積 [2.92] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山床。特に硬化は認められない。竈 検出されず。壁周溝 西壁に残存する。床面からの深さは 3 cm 前後を測る。重複 H-5 ~ 8 と重複し、H-5 に先行し、H-8 より後出する。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 10 点、須恵器 2 点、瓦 1 点である。図示し得た遺物はない。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半と想定される。

#### H-8号住居跡 (Fig. 8, PL. 2)

位置 X39、Y69 主軸方向 N - 97° - E 規模 東西軸 [0.38] m、南北軸 [0.85] m、壁現高 0.26 m。北西部のみの検出であり、南西部は H-7 により失い、東 ~ 北部は調査区外となる。面積 [0.32] m<sup>2</sup> 床面 平坦な地山床で、特に硬化は認められない。竈 検出されず。重複 H-7 と重複し、本址が先行する。

出土遺物 なし。時期 重複関係から 9 世紀後半頃と想定される。

### (2) 竪穴状遺構

#### T-1号竪穴状遺構 (Fig. 8, PL. 2)

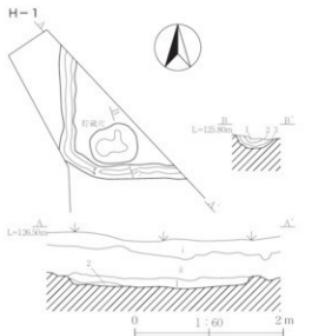
位置 X38、Y69 主軸方向 N - 47° - E 形状・規模等 北東部のみの検出であり、大半は調査区外となる。平面形態は不詳。東西 [0.73] m、南北 [1.40] m、深さ 0.18 m を測り、底面はほぼ平坦である。出土遺物 なし。時期 不詳。

### (3) ピット (Fig. 8, PL. 1, Tab. 2)

Tab. 2 のピット・土坑計測表を参照されたい。

Tab. 2 1区ピット・土坑計測表

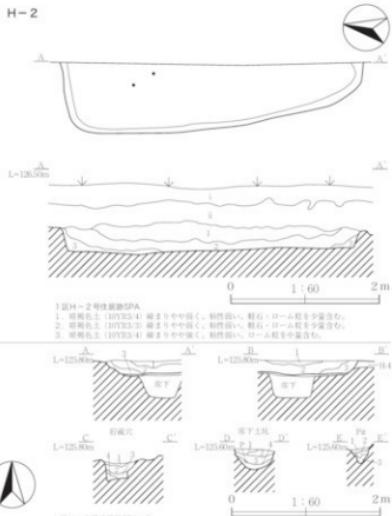
測量名	位置	長軸	短軸	深さ	底面横幅	形状	出土遺物	番号
P-1	X38、Y69	0.43	0.18	0.18	125(50)	円筒形		



1区 H=1 同住施設SPA

1. 暗褐色土 (10YR3/3) 硬まりやや弱く、粘性弱い。鈣石・ローム粒を少含む。
  2. 暗褐色土 (10YR3/4) 硬まりやや強く、粘性弱い。鈣石・ローム粒を少含む。
  3. 区H-1 号住居跡埋蔵5SPB
  4. 暗褐色土 (10YR3/4) 硬まりやや強く、粘性弱い。ローム粒を中量含む。

### 2. 雨潤色土 (10)



1 区 H-3 号住居跡 SPA・B

1. 嫩褐色土 (10Y3D/4) 繊毛りやや弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒・赤色小粒を少含む。
  2. 黒褐色土 (10Y3D/3) 繊毛りやや弱く、粘性弱い。軽石・ローム粒を少量含む。
  3. にじい黄褐色土 (10YB4-3) 繊毛りやや弱く、粘性弱い。ローム粒を多量含む。

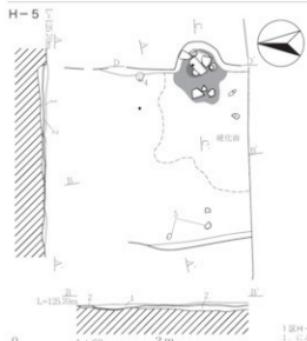
#### 1. 深褐色土 (10Y3/3-3) 稀少

2. 暗褐色土 (10YR5/4) 稲毛りやや固く、粘性弱い。φ10cmのローム粒を少量含む。  
 3. 暗褐色土 (10YR5/3) 稲毛りやや固く、粘性弱い。φ10cmのローム粒を少量含む。  
 4. 暗色土 (10YR4/4) 稲毛りやく、粘性弱い。ローム粒を含む。  
 1区H-3号住居跡下土質SPD

2. 黑褐色土 (10YR2/3) 88.1

- 3. 希薄色土 (10Y3D/3) 繊毛りやや固く、粘性弱い。ローム粒を微量含む。
  - 4. 希薄色土 (10Y3D/3) 繊毛りやや固く、粘性やや弱い。ローム粒を中量含む。  
区H-3 9号金属ピットSPE
  - 5. 希薄色土 (10Y3D/3) 繊毛りやや固く、粘性弱い。ローム粒を微量含む。

### 3. 酱色土 (10YR4/6) 蕃木



Page 1 of 1

- 1区H-5号住居-SPA・B

  1. 駐車場土 (10Y3/2) 繁まりやく固く、粘性高い。ローム量を多量含む。
  2. 駐車場土 (10Y3/2) 繁まりやく固く、粘性のない。ローム量を含む。
  3. 深層粘土 (10Y5/2) 繁まりやく固く、粘性のない。無機物質、無機・有機複合粘土。
  4. 席面粘土 (10Y5/2) 繁まりやく固く、粘性のない。無機物質、無機・有機複合粘土。
  5. 席面粘土 (10Y5/2) 繁まりやく固く、粘性のない。無機・有機複合粘土。
  6. 駐車場土 (10Y3/2) 繁まりやく固く、粘性の低い。乾・湿土ブロック(積土)を多量含む。
  7. 乾・湿土ブロック (10Y3/2) 繁まりやく固く、粘性の低い。

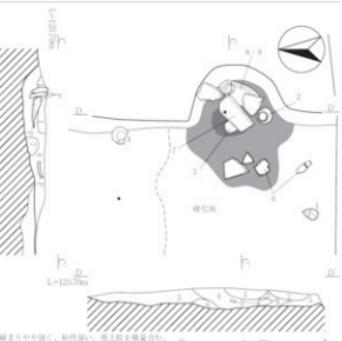


Fig. 6 1区H=1≈3:5号住居跡

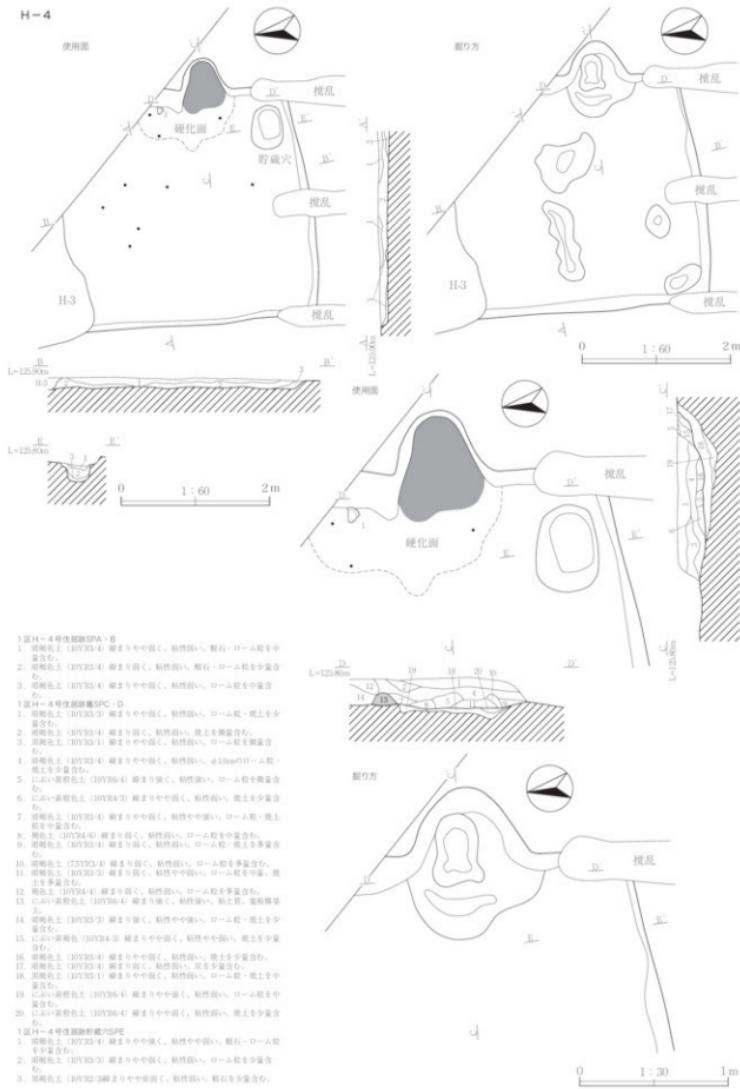


Fig.7 1区H-4号住居跡

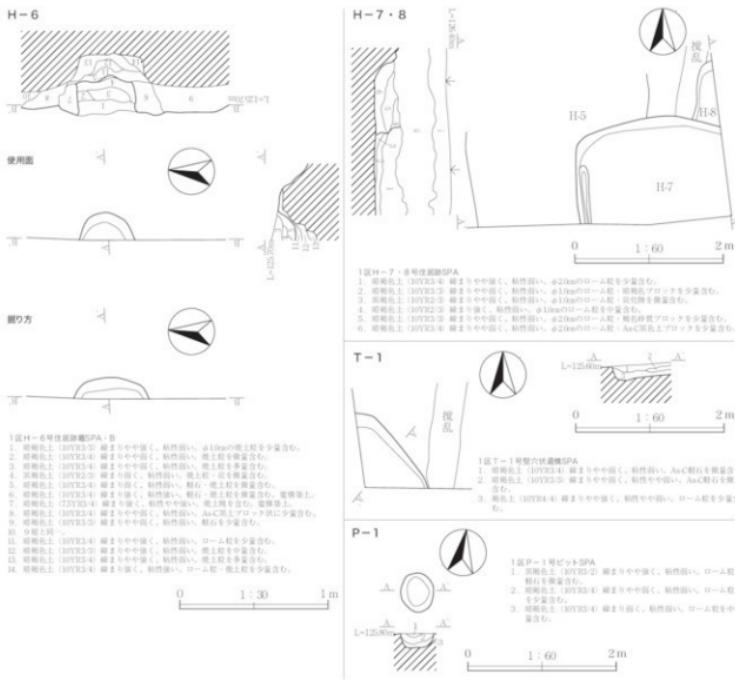
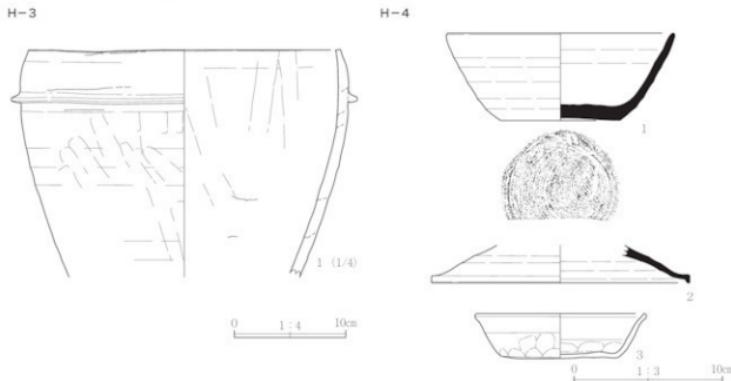


Fig.8 1区H-6~8号住居跡、T-1号堅穴状構造、P-1号ビット





II-5

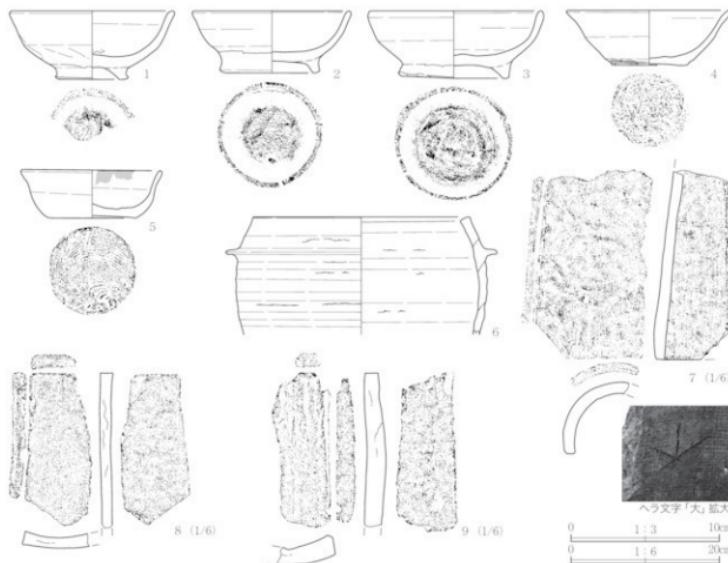


Fig.10 1区出土遺物(2)

Tab.3 1区出土遺物觀察表

II-3

番号	出羽山名	種類	種類	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	地土	焼成	色調	品目、成形、文様等の特徴	現況状況	備考
1	霞ヶ浦	瓦器	瓦器	(38.0)	—	(26.4)	（1）灰一色燒 （2）青一色燒 （3）小窓	十手燒	内面：淡青色 外側：青色 内側：青色 外側：青色	内面：淡青色 外側：青色 内側：青色 外側：青色	内面：淡青色 外側：青色 内側：青色 外側：青色	（1）手打瓦器 （2）手打瓦器 （3）手打瓦器
<b>H-4</b>												
1	波佐見	磁器	磁器	60	60	60	良質土	良質土	淡青色	内面：淡青色 外側：青色	内面：淡青色 外側：青色	（1）良質土 （2）良質土 （3）良質土
2	葛原	磁器	磁器	(12.0)	—	(12.5)	（1）青一色燒 （2）白一色燒	良質土	淡青色	内面：淡青色 外側：青色	内面：淡青色 外側：青色	（1）良質土 （2）良質土
3	波佐見	磁器	磁器	(11.0)	28	56	良質土	良質土	淡青色	内面：淡青色 外側：青色	内面：淡青色 外側：青色	（1）良質土 （2）良質土

H=5



## 2 2区

### (1) 窪穴住居跡

#### H-1号住居跡 (Fig.11・12・23, PL. 3・10, Tab. 5)

位置 X22・23, Y66・67 主軸方向 N - 125° - E 規模 東西軸 3.00 m、南北軸 4.00 m、壁現高 0.30 m。北西部を T-1 により失う。面積 [9.25] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な貼り床。中央部～竈手前の硬化が顕著である。竈 東壁の南寄りに位置する。確認長 1.15 m、燃焼部幅 0.45 m を測る。構築材には川原石や国分寺の基壇建物の化粧材を転用した角閃石安山岩切石を用いている。貯蔵穴 南西部隅より検出。平面は梢円形を呈し、東西 0.55 m、南北 0.62 m、深さ 0.30 m を測る。ピット 貯蔵穴の東隣から P-1 を検出。平面は梢円形を呈し、東西 0.28 m、南北 0.36 m、深さ 0.12 m を測る。重複 T-1, H-2 と重複し、T-1 に先行し、H-2 より後出である。出土遺物 接合作業後の破片数は円筒埴輪 1 点、土師器 78 点、須恵器 63 点、灰釉陶器 2 点、羽釜 98 点、瓦 23 点、鉄製品 2 点、石製品 1 点、黒曜石 1 点である。図示し得た遺物は Fig.23 の H-1-1～5 で、1・2 是須恵器坏、3 は平瓦、4 は加工を施した角閃石安山岩、5 は黒曜石の石核である。1～3 は竈、4 は基壇建物の化粧材を竈の袖材として転用したもの、寺院等の基壇化粧に使用した切石の可能性があり、5 は覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から 11 世紀代と想定される。

#### H-2号住居跡 (Fig.12・13・24, PL. 3・10, Tab. 5)

位置 X22, Y66～68 主軸方向 N - 14° - E 規模 東西軸 [5.48] m、南北軸 3.35 m、壁現高 0.25 m。北東部を H-1 により失い、南西部は調査区外となる。面積 [8.95] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な貼り床で、竈手前の中央部が硬化している。竈 東壁の南寄りで 2 基検出し、北側を竈 A、南側を竈 B とした。竈 A は確認長 0.90 m、燃焼部幅 0.28 m。竈 B は確認長 [1.23] m、燃焼部幅 [0.60] m を測る。竈 B では構築材設置の痕跡が認められ、左側の袖は粘土による。重複 H-1 と重複し、本址が先行する。出土遺物 接合作業後の破片数は繩文土器 1 点、土師器 69 点、須恵器 70 点、灰釉陶器 1 点、羽釜 40 点、瓦 29 点、石製品 2 点、馬齒 1 点である。図示し得た遺物は Fig.24 の H-2-2～5 で、1・2 は須恵器坏、3 は須恵器高台付坏、4 は平瓦、5 は磁石である。1～3・5 は覆土、4 は竈 B 出土である。時期 出土遺物の傾向から 10 世紀代と想定される。

#### H-3号住居跡 (Fig.14・24, PL. 3・10, Tab. 5)

位置 X21・22, Y62・63 主軸方向 N - 153° - E 規模 東西軸 3.00 m、南北軸 3.25 m、壁現高 0.20 m。面積 8.85 m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な貼り床で、中央部の硬化が顕著である。竈 南壁の中央やや東寄りに位置する。確認長 0.73 m、燃焼部幅 0.60 m を測る。右側の袖には縁を、支脚には輪羽口を使用し、焚口には平瓦を据えている。住居内施設 南東部から東西に並ぶ 2 基の床下土坑を検出した。両址ともに平面は梢円形を呈し、床下土坑 1 は東西 0.44 m、南北 0.39 m、深さ 0.10 m、床下土坑 2 は東西 0.42 m、南北 0.45 m、深さ 0.08 m を測る。重複 H-4・10 と重複し、本址が後出である。出土遺物 接合作業後の破片数は繩文土器 1 点、土師器 148 点、須恵器 69 点、羽釜 13 点、瓦 39 点、輪羽口 1 点、鉄製品 5 点、鉄滓 1 点である。図示し得た遺物は Fig.24 の H-3-1～11 で、1・2 は須恵器高台付坏、3 は須恵器高台付皿、4 は輪羽口、5 は軒丸瓦、6 は丸瓦、7～11 は平瓦である。1・3・5 は床面直上、2・9・11 は床下土坑 2、4 は竈支脚、8 は竈焚口、6・7・10 は覆土出土である。時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半～10 世紀前半と想定される。

#### H-4号住居跡 (Fig.15・25, PL. 4・10, Tab. 5)

位置 X21・22, Y62・63 主軸方向 N - 92° - E 規模 東西軸 2.90 m、南北軸 [3.00] m、壁現高 0.18 m。



南部をH-3により失う。面積 [4.96] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な貼り床で、中央部付近が硬化している。竈 東壁の南寄りに位置し、確認長 [0.70] m、燃焼部幅 0.73 m を測る。支脚を据えた痕跡が認められる。重複 H-3・10と重複し、H-3に先行し、H-10より後出である。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器101点、須恵器44点、羽釜1点、瓦17点、鉄製品1点である。図示し得た遺物はFig25のH-4-1~10で、1は須恵器高台付环、2~5は須恵器环、6は須恵器高台付皿、7は土師器环、8~10は平瓦である。1~4・6は床面直上、5・7・8は覆土、9・10は竈からの出土である。時期 出土遺物の傾向から9世紀後半と想定される。

#### H-5号住居跡 (Fig.15・25, PL. 3・11, Tab. 5)

位置 X22・23, Y57~59 主軸方向 N-87°-E 規模 東西軸 [3.08] m、南北軸 [4.50] m、壁現高 0.25 m。北端部をW-3に、南部をW-5による削平を受け、南東部は調査区外となる。面積 [7.18] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山硬化床。竈 検出されず。壁周溝 西壁、北壁、東壁に残存し、床からの深さ7~10cmを測る。重複 W-3・5と重複し、本址が先行する。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器2点、須恵器1点、石1点である。図示し得た遺物はFig25のH-5-1~3で、1は須恵器蓋、2は土師器塊、3はこも編石状の石で、磨り痕を有する。1・2は床面直上、3は覆土からの出土である。時期 出土遺物が少量で判然としないが、8世紀後半と想定される。

#### H-6号住居跡 (Fig.16・25, PL. 5・11, Tab. 5)

位置 X22・23, Y74・75 主軸方向 N-83°-E 規模 東西軸 [0.30] m、南北軸 2.43 m、壁現高 0.40 m。西側の大半は調査区外となる。面積 [0.61] m<sup>2</sup> 床面 地山硬化床で、ほぼ平坦である。竈 東壁の中央やや南寄りに位置する。確認長 [0.63] m、燃焼部幅 0.58 m を測る。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器4点、須恵器5点である。図示し得た遺物はFig25のH-6-1で、竈出土の須恵器环である。時期 出土遺物が少量で判然としないが、8世紀後半と想定される。

#### H-7号住居跡 (Fig.16・25, PL. 4・11, Tab. 5)

位置 X22・23, Y71 主軸方向 N-103°-E 規模 東西軸 [2.40] m、南北軸 2.95 m、壁現高 0.18 m。西側は調査区外となる。面積 [5.36] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な貼り床で、全体に締まり良好である。竈 東壁のはば南端に位置する。確認長 1.01 m、燃焼部幅 0.62 m を測る。補強材を設置した痕跡が認められる。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器50点、須恵器24点、灰釉陶器3点、羽釜23点、瓦19点、鉄製品2点、鉄滓1点、馬齒1点である。図示し得た遺物はFig25のH-7-1~4の須恵器环で、1・2は床面直上、3・4は覆土からの出土である。時期 出土遺物の傾向から10世紀後半と想定される。

#### H-8号住居跡 (Fig.17・26, PL. 4・11, Tab. 5)

位置 X23・24, Y70・71 主軸方向 N-82°-E 規模 東西軸 [1.40] m、南北軸 4.32 m、壁現高 0.30 m。北端部をW-11により削平を受け、東半部は調査区外となる。面積 [6.05] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な地山硬化床であるが、北側の一部が貼り床となる。竈 検出されず。貯蔵穴 南西部隅より検出。平面は楕円形を呈し、東西 0.55 m、南北 0.59 m、深さ 0.30 m を測る。ピット 2口のピットを検出し、北側をP-1、南側をP-2とした。P-1の平面は南北にやや長い楕円形を呈し、東西 0.23 m、南北 0.29 m、深さ 0.35 m を測る。P-2の平面は楕円形を呈し、東西 0.39 m、南北 0.43 m、深さ 0.48 m を測る。2口の芯～芯距離は 2.03 mである。主柱穴の可能性を有する。重複 H-9、W-11と重複し、W-11に先行し、H-9より後出である。



出土遺物 接合作業後の破片数は円筒埴輪4点、土師器11点、須恵器25点、灰釉陶器4点、羽釜35点、土釜1点、瓦26点、鉄製品1点、鉄滓1点である。図示し得た遺物はFig.26のH-8-1~6で、1は須恵器坏、2は土師器高台付坏、3・4は羽釜、5は土釜、6は鉄製の紡錘車である。1は覆土、2~6は床面直上からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から11世紀代と想定される。

#### H-9号住居跡 (Fig.17・26、PL. 4、Tab. 5)

位置 X23、Y70 主軸方向 N-89°-E 規模 東西軸 [1.13] m、南北軸 [1.80] m、壁現高0.07m。南部をW-11、H-8により失い、東半部は調査区外となる。 面積 [2.39] m<sup>2</sup> 床面 平坦な貼り床である。

龜 検出されず。重複 H-8、W-11と重複し、本址が先行する。 出土遺物 接合作業後の破片数は羽釜1点、瓦2点である。図示し得た遺物はFig.26のH-9-1の丸瓦で、覆土からの出土である。 時期 出土遺物が少量で判然としないが、10~11世紀代と想定される。

#### H-10号住居跡 (Fig.17・18・26、PL. 4・11、Tab. 5)

位置 X21・22、Y61・62 主軸方向 N-98°-E 規模 東西軸 [3.38] m、南北軸 4.00 m、壁現高0.36 m。南東部をH-3・4により削平を受け、西部は調査区外となる。 面積 [11.36] m<sup>2</sup> 床面 ほぼ平坦な貼り床で、全体に縮まり良好である。 龜 東壁の南寄りに位置する。上部の大半をH-4により失うが、確認長0.80 m、燃焼部幅0.65 mを測る。袖は粘土により構築されている。 壁周溝 北壁、東壁、南壁に残存し、床からの深さ3~10cmを測る。 重複 DB-1、H-3・4と重複し、本址が先行する。 出土遺物 接合作業後の破片数は土師器39点、須恵器4点、瓦1点、鉄製品1点、石2点である。図示し得た遺物はFig.26のH-10-1~3で、1は須恵器高台付坏、2・3はこも縞石状の石で、磨り痕を有する。全て床面直上から出土である。 時期 出土遺物の傾向から8世紀後葉~9世紀中葉と想定される。

### (2) 竪穴状遺構

#### T-1号竪穴状遺構 (Fig.18・26、PL. 5・11、Tab. 5)

位置 X23、Y66・67 主軸方向 不詳 形状・規模等 D-10により北側の一部を失い、東半部は調査区外となる。平面は楕円形状を呈するものであろうか。東西 [1.39] m、南北 [3.53] m、深さ0.72 mを測り、南側の立ち上がりは緩やかである。 重複 D-10、H-1と重複し、D-10に先行し、H-1より後出である。

出土遺物 接合作業後の破片数は円筒埴輪1点、土師器34点、須恵器15点、灰釉陶器1点、羽釜12点、瓦9点、かわらけ1点である。図示し得た遺物はFig.26のT-1-1・2で、1はかわらけ、2は軒平瓦で、覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から17世紀前半頃と想定される。

#### T-2号竪穴状遺構 (Fig.18、PL. 5)

位置 X29、Y57 主軸方向 N-105°-E 形状・規模等 南部をW-4・6・7により削平を受け、北・東半部は調査区外となる。平面は方形を呈するであろうか。東西 [2.22] m、南北 [1.12] m、深さ0.42 mを測り、底面はほぼ平坦で、南壁際に浅い窪みを有する。 重複 W-4・6・7、D-15と重複し、W-4・6・7に先行し、D-15より後出である。 出土遺物 出土していない。 時期 重複関係から10世紀代と想定される。

#### T-3号竪穴状遺構 (Fig.18・26、PL. 5、Tab. 5)

位置 X24・25、Y78・79 主軸方向 N-93°-E 形状・規模等 東半部は調査区外となる。平面は隅丸方形を呈するものであろうか。東西 [0.95] m、南北 [3.15] m、深さ0.42 mを測り、底面はほぼ平坦である。



出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 20 点、須恵器 28 点、灰釉陶器 3 点、瓦 8 点である。図示し得た遺物は Fig.26 の T - 3 - 1・2 で、1 は須恵器高台付坏、2 は須恵器坏で覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から 9 世紀後半～10 世紀前半と想定される。

#### T - 4 号竪穴状遺構 (Fig.18, PL. 5)

位置 X24、Y75 主軸方向 N - 83° - E 形状・規模等 南部を現代擾乱により失い、東半部は調査区外となる。平面は方形を呈するものであろうか。東西 [1.12] m、南北 [1.25] m、深さ 0.43 m を測り、底面は平坦である。 出土遺物 須恵器 1 点が出土するが、図示不可能である。 時期 堆積状況から近世以降と想定される。

### (3) 溝

#### W - 1 号溝 (Fig.18, PL. 6)

位置 X12～14、Y57 主軸方向 N - 98° - W 規模 長さ [8.35] m、上幅 1.65 m、下幅 0.39 m、深さ 0.76 m 形状等 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は V 字に近い逆台形状を呈する。底面は平坦で東側が低い。溝水の痕跡は確認できない。 出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 3 点、須恵器 1 点、羽釜 1 点、瓦 4 点である。図示し得た遺物はない。 時期 堆積状況から近世以降と想定される。

#### W - 2 号溝 (Fig.19・26, PL. 6・11, Tab. 5)

位置 X18、Y57・58 主軸方向 N - 3° - E 規模 長さ [2.18] m、上幅 [1.75] m、下幅 [0.35] m、深さ 1.75 m 形状等 西側壁の部分的な検出であるが、南北方向に走行する溝の可能性が高く、調査区外に続く。断面は逆台形を呈するものであろうか。溝水の痕跡は確認できない。 出土遺物 接合作業後の破片数は土師器 2 点、瓦 4 点、在地系 2 点である。図示し得た遺物は Fig.26 の W - 2 - 1 で、在地系軟質の鉢である。 時期 堆積状況から近世以降と想定される。

#### W - 3 号溝 (Fig.19・26, PL. 6・11, Tab. 5)

位置 X20～28、Y57・58 主軸方向 N - 80° - W 規模 長さ [31.50] m、上幅 2.75 m、下幅 1.14 m、深さ 1.05 m 形状等 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。溝水の痕跡は確認できない。 W - 02 と直交し、同時期に機能していた可能性を有する。 重複 H - 5 と重複し、本址が後出である。 出土遺物 接合作業後の破片数は繩文土器 1 点、須恵器 3 点、灰釉陶器 1 点、羽釜 2 点、瓦 26 点、かわらけ 2 点、常滑 1 点、在地系 2 点である。図示し得た遺物は Fig.26 の W - 3 - 1・2 で、1 はかわらけ、2 は在地系瓦質の内耳土器である。 時期 出土遺物が少量で判然としないが、15 世紀以降と想定される。

#### W - 4 号溝 (Fig.19, PL. 6)

位置 X26～29、Y57 主軸方向 N - 88° - W 規模 長さ [13.55] m、上幅 0.80 m、下幅 0.58 m、深さ 0.13 m 形状等 東西方向に走行し、東側は調査区外に続く。底面には無数の凹凸を有し、東側が低くなる。断面は逆台形を呈する。溝水の痕跡は確認できない。 重複 W - 6・7、T - 2、D - 15 と重複し、本址が後出である。 出土遺物 接合作業後の破片数は須恵器 1 点、灰釉陶器 1 点、瓦 2 点である。図示し得た遺物はない。 時期 出土遺物が少量で判然としないが、堆積状況から近世以降と想定される。

#### W - 5 号溝 (Fig.19・26, PL. 6・11, Tab. 5)

位置 X20～22、Y58・59 主軸方向 N - 80° - W 規模 長さ [7.28] m、上幅 2.03 m、下幅 1.42 m、深さ



0.65 m 形状等 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は弧状気味で、底面には凹凸を有し、東側が低い。溝水の痕跡は確認できない。重複 H-5と重複し、本址が後出である。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器2点、須恵器3点、灰釉陶器1点、羽釜3点、瓦2点である。図示し得た遺物はFig.26のW-5-1で、須恵器高台付坏である。時期 出土遺物の傾向から10世紀代と想定される。

#### W-6号溝 (Fig.20, PL. 6)

位置 X28・29、Y57・58 主軸方向 N-52°-W 規模 長さ [5.00] m、上幅1.60 m、下幅0.40 m、深さ0.27 m 形状等 北西-南東方向に走行し、調査区外に続く。断面は弧状を呈し、底面は非常に硬く、南東側が低くなる。溝水の痕跡は確認できない。重複 W-4・7、T-2、D-15、P-7と重複し、W-4、T-2、P-7に先行し、W-7、D-15より後出である。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器5点、須恵器4点、羽釜7点、瓦5点である。図示し得た遺物はない。時期 出土遺物の傾向、及び堆積状況から10世紀以降と想定される。

#### W-7号溝 (Fig.20, PL. 6)

位置 X28・29、Y57・58 主軸方向 N-51°-W 規模 長さ [4.20] m、上幅0.50 m、下幅0.25 m、深さ0.05 m 形状等 W-6底面の硬く締まった暗褐色土を除去した状況をW-7とした。断面は弧状で、底面は段を有し、南東側が低くなる。溝水の痕跡は確認できない。W-6とW-7は一連の造構であり、通路としての機能が想定される。重複 W-4・6、T-2、D-15、P-7と重複し、W-4・6、T-2、P-7に先行し、D-15より後出である。出土遺物 接合作業後の破片数は須恵器1点、瓦3点である。図示し得た遺物はない。時期 出土遺物の傾向、及び堆積状況から10世紀以降と想定される。

#### W-8号溝 (Fig.20・26, PL. 6・11, Tab. 5)

位置 X23～25、Y81・82 主軸方向 N-86°-W 規模 長さ [6.34] m、上幅2.53 m、下幅1.47 m、深さ0.91 m 形状等 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形状を呈する。底面には大小の窪みを有し、東側が低い。溝水の痕跡は確認できない。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器10点、須恵器7点、瓦29点、かわらけ5点、常滑1点、在地系4点、铁滓1点である。図示し得た遺物はFig.26のW-8-1～5で、1・2はかわらけ、3は在地系軟質の擂鉢、4・5は在地系の鉢である。時期 出土遺物の傾向から15～16世紀代と想定される。

#### W-9号溝 (Fig.20・26, PL. 7・12, Tab. 5)

位置 X23・24、Y77 主軸方向 N-89°-E 規模 長さ [6.08] m、上幅0.67 m、下幅0.40 m、深さ0.38 m 形状等 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形を呈する。底面には耕作痕を有し、東側が低い。溝水の痕跡は確認できない。出土遺物 接合作業後の破片数は繩文土器1点、土師器14点、須恵器13点、羽釜1点、かわらけ5点、在地系1点、肥前2点、近世土器5点である。図示し得た遺物はFig.26のW-9-1・2で、肥前の染付け碗である。時期 出土遺物の傾向から近代と想定される。

#### W-10号溝 (Fig.20・27, PL. 7・12, Tab. 5)

位置 X23・24、Y76・77 主軸方向 N-85°-W 規模 長さ [6.75] m、上幅4.08 m、下幅1.38 m、深さ1.18 m 形状等 東西方向に走行し、調査区外に続く。断面は逆台形状を呈し、底面は東側がやや低い。溝水の痕跡は確認できない。出土遺物 接合作業後の破片数は土師器9点、須恵器16点、羽釜1、瓦49点、瀬戸2



点、かわらけ8点、在地系5点、肥前1点である。図示し得た遺物はFig.27のW-10-1~4で、1~3はかわらけ、4は平瓦で凸面に「山田」の押印を有する。 時期 堆積状況から近世以降と想定される。

#### W-11号溝 (Fig.20, PL. 7)

位置 X23, Y70・71 主軸方向 N-84°-W 規模 長さ [2.76] m、上幅 [0.80] m、下幅 0.24 m、深さ 0.52 m 形状等 東西方向に走行し、西側はW-12と接し、東側は調査区外に続く。断面は逆台形状を呈し、底面は平坦で、東側がやや低い。湛水の痕跡は確認できない。 重複 H-8・9と重複し、本址が後出である。 出土遺物 なし。 時期 堆積状況から近世以降と想定される。

#### W-12号溝 (Fig.20・27, PL. 7・12, Tab. 5)

位置 X22・23, Y70・71 主軸方向 N-76°-W 規模 長さ [3.50] m、上幅 2.00 m、下幅 1.60 m、深さ 0.53 m 形状等 東西方向に走行し、東側はW-11と接し、西側は調査区外に続く。断面は箱状を呈し、底面は東側が低い。湛水の痕跡は確認できない。部分的な検出であり詳細不明である。 重複 W-13と重複し、本址が後出である。 出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器1点、土師器5点、須恵器9点、羽釜4、瓦3点、在地系4点、常滑1点である。図示し得た遺物はFig.27のW-12-1で、在地系軟質の鉢である。 時期 堆積状況から近世以降と想定される。

#### W-13号溝 (Fig.20・27, PL. 7, Tab. 5)

位置 X22, Y70 主軸方向 N-2°-E 規模 長さ [1.45] m、上幅 1.48 m、下幅 1.16 m、深さ 0.43 m 形状等 南北方向に走行し、南側はW-12により失い、北側は調査区外に続く。断面は箱状を呈する。底面はほぼ平坦で南側が低い。湛水の痕跡は確認できない。部分的な検出であり詳細不明である。 重複 W-12と重複し、本址が先行する。 出土遺物 接合作業後の破片数は土師器8点、須恵器10点、灰釉陶器1点、羽釜2、瓦3点である。図示し得た遺物はFig.27のW-13-1で、灰釉陶器碗である。 時期 出土遺物の傾向から10~11世紀代と想定される。

### (4) 土塚墓

#### DB-1号土塚墓 (Fig.21・27, PL. 7・12, Tab. 5)

位置 X21, Y62 形状・規模等 平面は隅丸方形形状を呈し、長軸(南北) 1.18 m、短軸(東西) 0.82 m、深さ [0.10] mを測る。 葬法他 頭位は北位東面、葬法は左側臥屈葬。人骨の遺存状態は不良であるが、ほぼ全身の部位を検出している。成人男性と考えられる。 重複 H-10と重複し、本址が後出である。 出土遺物 接合作業後の破片数は土師器5点、かわらけ1点、銅鏡6点、鉄製品2点である。図示し得た遺物はFig.27のDB-1-1~8である。1~6は銅鏡で、順に天慶元寶・熙寧元寶・天聖元寶・治平元寶・紹聖元寶・元祐通寶である。全て北宋錢で、人頭の東10 cmの位置から発見した状態で出土している。7・8は鉄釘で、一部に木質が残存しており、棺材を留めたものと考えられる。後頭部に接するように60 cmの間隔で検出された。 時期 出土遺物の傾向、及び埋葬状況から中世(15世紀代か)と想定される。

#### DB-2号土塚墓 (Fig.21・27, PL. 7・12, Tab. 5)

位置 X24, Y82 形状・規模等 平面は長方形形状を呈し、長軸(南北) 0.96 m、短軸(東西) 0.60 m、深さ [0.15] mを測る。底面はほぼ平坦である。 葬法他 骨の残存状況は微量であり、詳細は不明であるが、遺物の検出状況等から土塚墓とした。 出土遺物 接合作業後の破片数は縄文土器1点、土師器5点、須恵器3点、羽釜4点、



瓦1点、かわらけ4点、銅銭2点である。図示し得た遺物はFig.27のD B - 2 - 1 ~ 6で、北部から出土している。1~4はかわらけで、下から4→2→3→1の順に、伏位→正位→伏位→正位の状態で重ねられていたものが南側に倒壊したものと考えられる。5・6は北宋銭で順に皇宋通寶・治平元寶である。 時期 出土遺物の傾向から15世紀後半を中心とした時期と想定される。

#### DB-3号土壙墓 (Fig.21・27, PL. 7・12, Tab. 5)

位置 X24, Y78 形状・規模等 平面は隅丸方形状と推測される。長軸(南北) [0.90] m、短軸(東西) [0.75] m、深さ [0.10] mを測る。 葬法他 頭位は北位東面、葬法は左側臥屈葬。人骨の遺存状態は不良であるが、ほぼ全身の部位を検出している。成人男性と考えられる。 出土遺物 接合作業後の破片数は土師器3点、須恵器1点、銅銭6点、鉄製品2点である。図示し得た遺物はFig.27のD B - 3 - 1 ~ 6の銅銭で、1~3と4・5はそれぞれ癒着状態で出土した。順に判読不可・元祐通寶・皇宋通寶・判読不可・皇宋通寶・永楽通寶で、2・3・5は北宋銭、6は明銭である。 時期 出土遺物の傾向、及び埋葬状況から中世(15世紀代か)と想定される。

#### (5) 土坑・ピット (Fig.21・22・23・28・29, PL. 8・9・12, Tab. 4・5)

本調査区からは土坑: 26基、ピット: 13口を検出している。各遺構の形状・規模等に関してはTab. 4に掲載している。ここではFig.28・29に示した実測個体資料について略記し、詳細はTab. 5を参照されたい。

D-3-1は須恵器壺、2は土師質の壺。D-4-1は須恵器蓋。D-8-1はかわらけ、2はこも編石状の石で磨り痕を有する。D-9-1~4はかわらけ。D-10-1は須恵器壺。D-15-1は羽釜。D-21-1は須恵器耳皿。D-24-1~3は須恵器高台付壺、4は灰釉陶器長頸瓶、5・6は丸瓦。D-26-1は須恵器壺、2は須恵器高台付壺。P-1-1は在地系軟質の壺か。

#### (6) その他

##### X-1号跡 (Fig.23・29, PL. 5, Tab. 5)

位置 X23, Y78~80 主軸方向 不詳 形状・規模等 部分的な検出にとどまり、遺構の大半は調査区外となる。平面形態は不詳である。東西 [1.07] m、南北 [9.30] m、深さ 0.91 mを測り、底面は北側が低くなっている。

出土遺物 接合作業後の破片数は土師器19点、須恵器12点、灰釉陶器3点、瓦7点、近世陶磁器8点である。図示し得た遺物はFig.29のX-1-1・2で、1は軒丸瓦、2は平瓦で、覆土からの出土である。 時期 出土遺物の傾向から近世以降と想定される。

##### X-2号跡 (Fig.23, PL. 5)

位置 X22・23, Y73・74 主軸方向 不詳 形状・規模等 東壁部の検出にとどまり、遺構の大半は調査区外となる。平面は方形を呈するものか。東西 [0.45] m、南北 [1.95] m、深さ 0.36 mを測り、底面は平坦である。

出土遺物 接合作業後の破片数は縦文土器1点、土師器1点、須恵器1点で、図示し得た遺物はない。 時期 出土遺物が少量で判然としない。

##### X-3号跡 (Fig.23, PL. 5)

位置 X22, Y72・73 主軸方向 不詳 形状・規模等 東壁～南壁部の検出にとどまり、遺構の大半は調査区外となる。平面は方形を呈するものか。東西 [1.08] m、南北 [2.55] m、深さ 0.58 mを測り、底面は北側がやや低くなる。 出土遺物 接合作業後の破片数は土師器1点、須恵器1点で、図示し得た遺物はない。 時期 出土遺物が少量で判然としない。



Tab.4 2区H-1号住居跡

遺物名	位置	長軸	短軸	深さ	直角標高	形状	出土場所	備考
P-1 X-32, Y-60	0.45	0.42	0.28	125.19	円筒形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-2 X-3 32, Y-60	0.45	0.42	0.28	125.21	円筒形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-3 X-31, Y-60	0.50	0.50	0.26	125.90	円筒形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-4 X-31, Y-60	0.26	0.24	0.30	125.75	楕円形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-5 X-31, Y-59	0.45	0.32	0.28	125.91	楕円形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-6 X-31, Y-59	0.45	0.32	0.28	125.91	楕円形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-7 X-30, Y-58	0.24	0.18	0.43	126.01	楕円形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-8 X-31, Y-58	0.62	0.52	0.29	126.05	楕円形	【脚部】、【底部】	牛糞便	第1-6号より複数
P-9 X-34, Y-59	0.39	0.31	0.17	124.72	楕円形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-10 X-32, Y-54, Y-74	0.40	0.31	0.24	124.99	楕円形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-11 X-32, Y-54, Y-74	0.24	0.18	0.18	124.90	楕円形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-12 X-33, Y-73	0.25	0.23	0.26	124.67	円筒形	【脚部】、【底部】	牛糞便	
P-13 X-32, Y-72	0.22	0.18	0.20	124.91	方形	【底】	牛糞便	
D-1 X-34, Y-58	1.35	0.65	0.05	126.31	直角形	【脚部】、【底部】	牛糞便	遺物以降
D-2 X-32, Y-60, Y-69	1.35	0.65	0.05	125.94	直角形	【脚部】、【底部】、【底】	牛糞便	遺物以降
D-3 X-31, Y-58	0.72	0.72	0.13	125.54	楕円形	【脚部】、【底部】、【底】、【脚部】13、【底部】13、【底】7	牛糞便	
D-4 X-31, Y-58	1.24	0.63	0.22	125.30	楕円形	【脚部】2、【脚部】4、【脚部】6、【底部】2、【底】2	牛糞便	
D-5 X-32, Y-58, Y-66	1.42	0.90	0.28	125.53	直角形	【脚部】3、【脚部】7、【底部】1、【底】3	牛糞便	
D-6 X-32, Y-58	0.93	0.56	0.26	125.46	直角形	【脚部】3、【脚部】4、【脚部】2、【脚部】2、【脚部】3、【底部】3	牛糞便	
D-7 X-32, Y-58	1.18	0.66	0.26	125.46	直角形	【脚部】3、【脚部】4、【脚部】4、【脚部】4、【底部】4	牛糞便	D-9号より複数
D-8 X-32, Y-58, Y-65	1.20	1.00	0.31	125.53	直角形	【脚部】14、【脚部】8、【脚部】2、【底】2、【かづらひ】6、【底】1	牛糞便	14号より複数
D-9 X-32, Y-60	0.83	0.40	0.13	125.74	不規則	【脚部】1、【脚部】9、【脚部】10、【脚部】11、【脚部】1、【底】2、【かづらひ】8	牛糞便	D-7号より、14-15世紀
D-10 X-32, Y-60	1.00	0.77	0.32	125.36	直角形	【脚部】4、【脚部】2	牛糞便	D-7号より
D-11 X-32, Y-60	1.00	0.77	0.32	125.36	直角形	【脚部】4、【脚部】2	牛糞便	D-7号より
D-12 X-32, Y-60	1.20	0.89	0.40	125.90	不規則	【脚部】1	牛糞便	
D-13 X-31, Y-58	0.96	0.81	0.40	125.77	楕円形	【脚部】2、【脚部】5、【底部】2、【底】2	牛糞便	第1-5号より複数
D-14 X-31, Y-60	1.15	0.67	0.26	125.26	不規則	【脚部】2、【脚部】2、【底部】2、【底】2	牛糞便	第1-5号より複数
D-15 X-32, Y-58	0.76	0.57	0.27	125.52	楕円形	【脚部】2	牛糞便	第1-5号より複数
D-17 X-34, Y-59	0.77	0.55	0.11	124.74	直角形	【脚部】1、【脚部】3	牛糞便	
D-18 X-34, Y-59	0.69	0.48	0.14	124.79	直角形	【脚部】3、【脚部】4	牛糞便	
D-19 X-35, Y-78	0.69	0.48	0.18	124.96	直角形	【脚部】3、【脚部】4	牛糞便	
D-20 X-34, Y-58	0.61	0.41	0.13	124.96	直角形	【脚部】3、【脚部】4、【脚部】2、【底部】2、【底】1	牛糞便	
D-21 X-34, Y-57, Y-54	0.93	0.70	0.25	125.10	楕円形	【脚部】2、【脚部】5	牛糞便	
D-22 X-32, Y-72-73	0.63	0.47	0.11	125.02	楕円形	【脚部】1	牛糞便	
D-23 X-31, Y-72	0.66	0.48	0.09	124.94	楕円形	【脚部】1	牛糞便	D-25号より後、14世紀代
D-24 X-31, Y-72	0.71	0.51	0.11	124.94	楕円形	【脚部】1	牛糞便	D-24号より
D-25 X-31, Y-78, Y-79	0.65	0.56	0.18	124.67	楕円形	【脚部】1	牛糞便	D-24号より
D-26 X-32, Y-79	0.60	0.60	0.11	124.86	楕円形	【脚部】1、【脚部】3、【底】1	牛糞便	9世紀後半

H-1

使用面

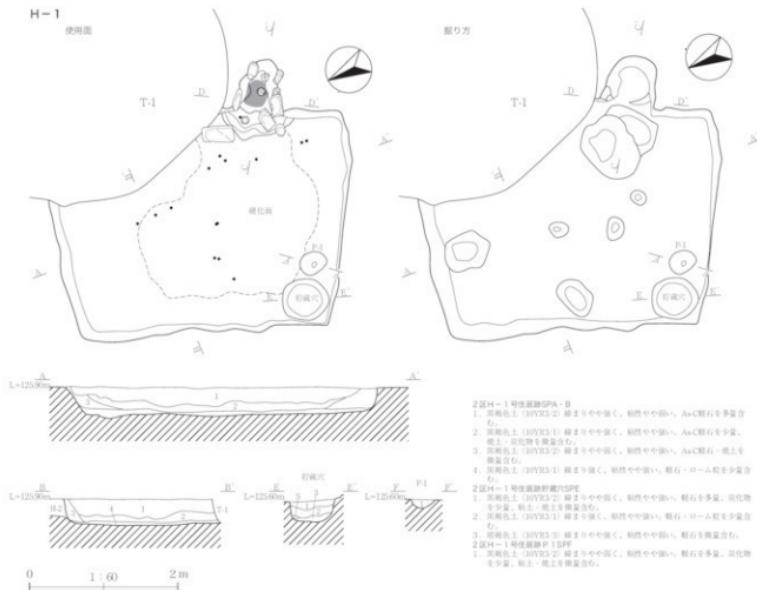


Fig.11 2区H-1号住居跡

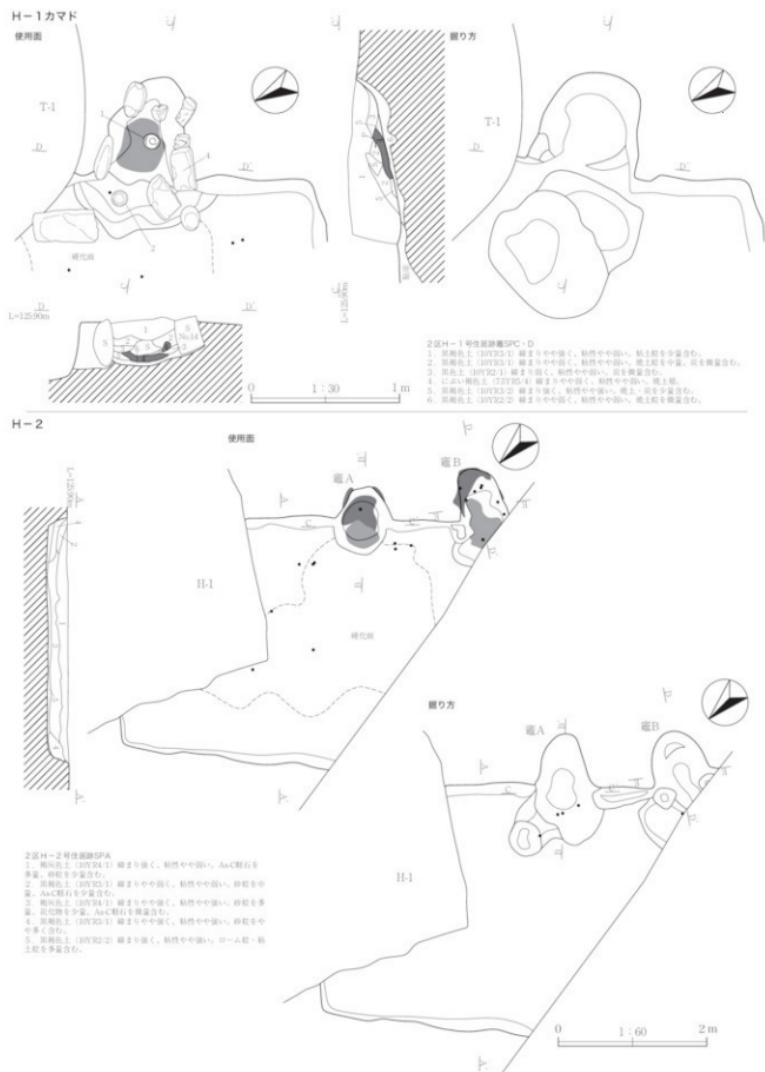


Fig.12 2区H-1・2号住居跡



H-2カマド

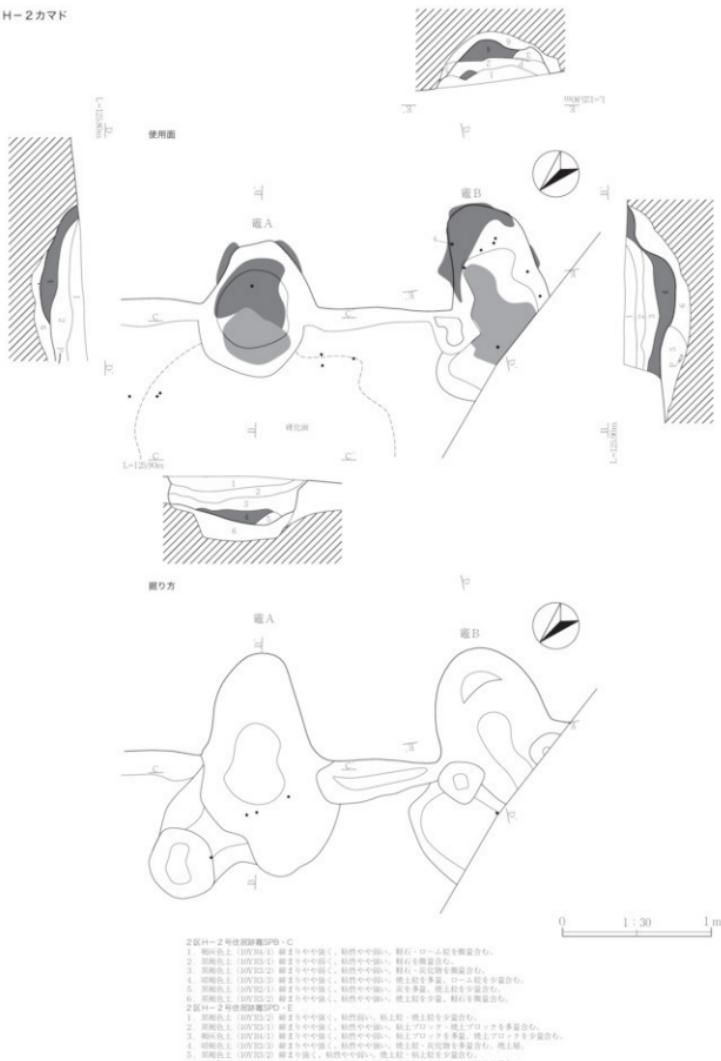


Fig.13 2区H-2号住居跡



H-3

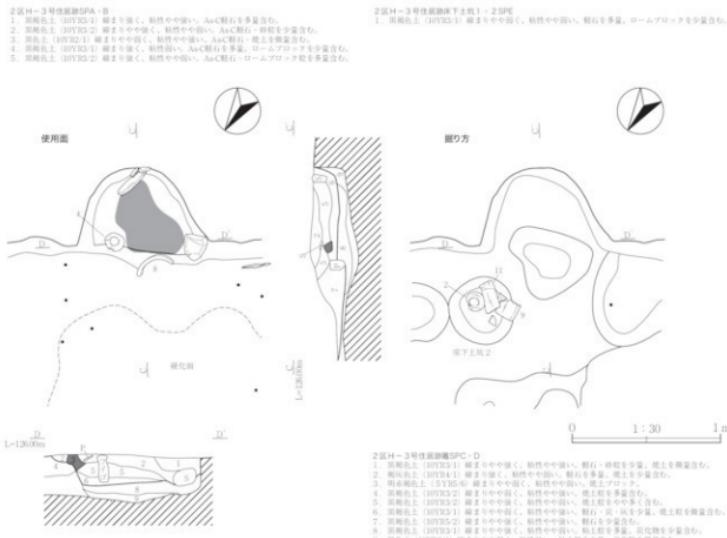
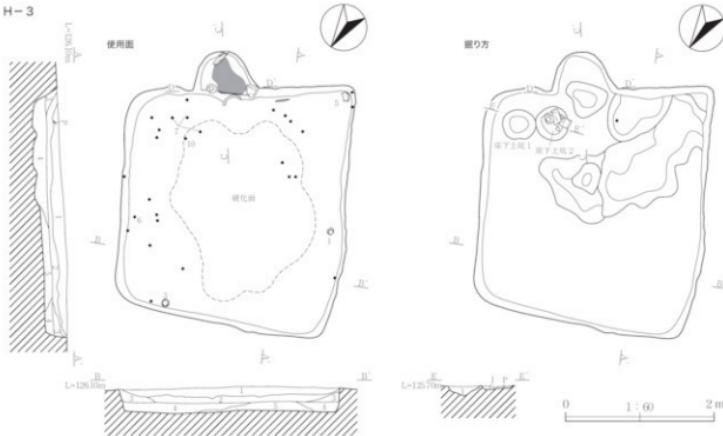


Fig.14 2区H-3号住居跡

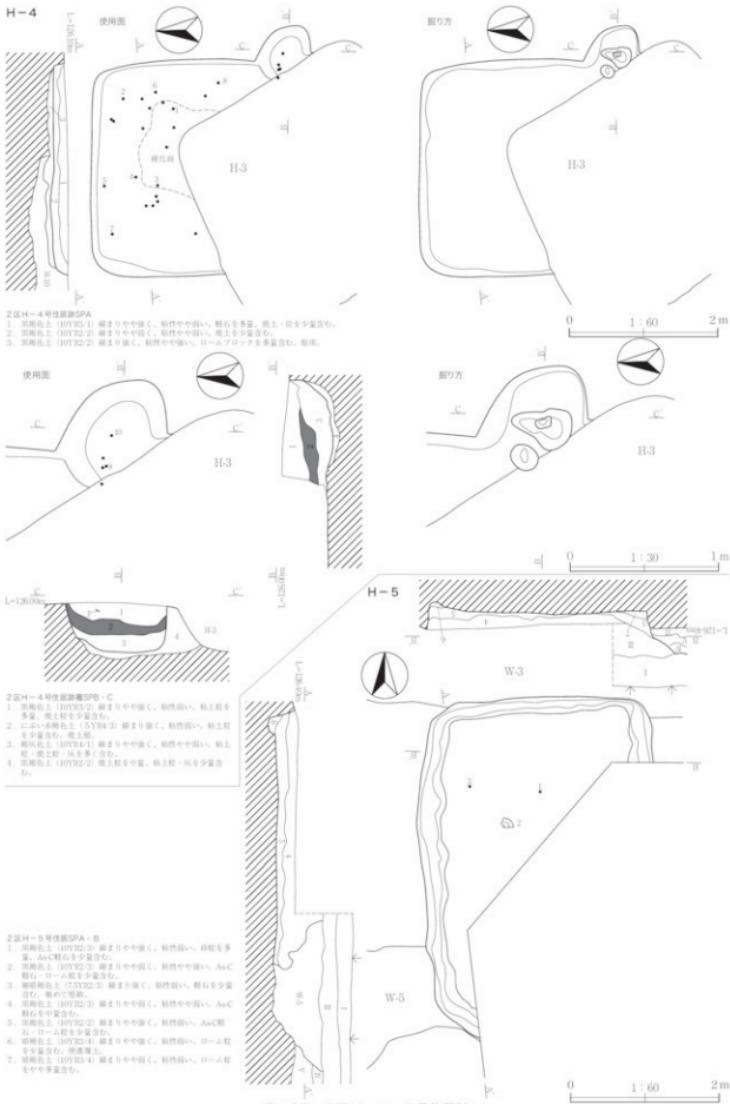


Fig.15 2区H-4・5号住居跡

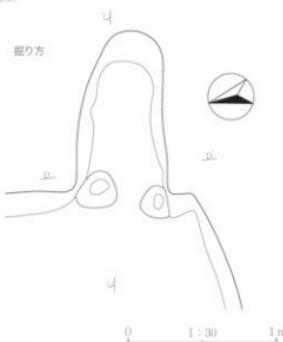
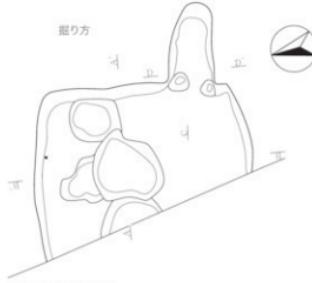
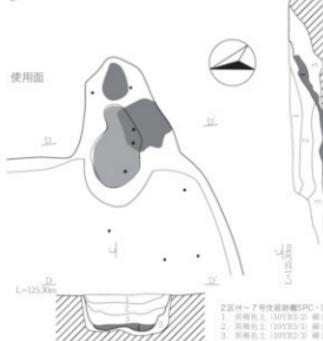
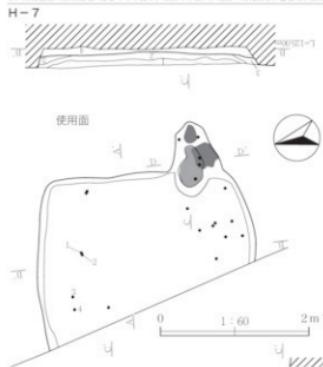
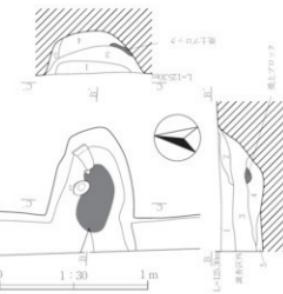
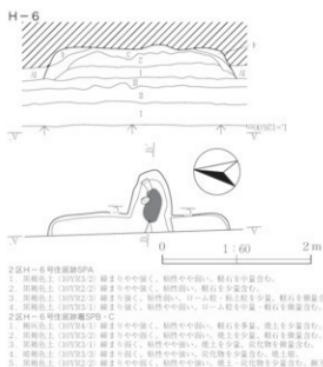
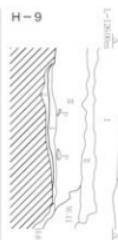
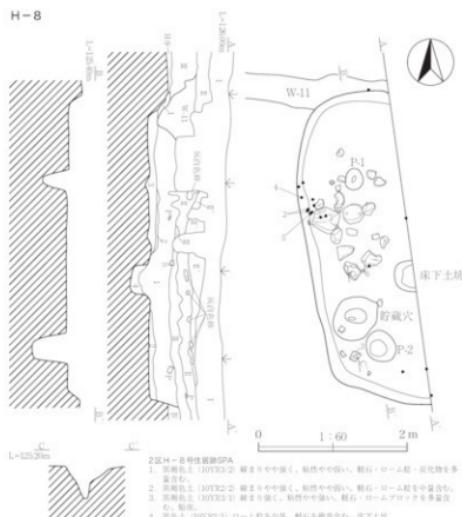


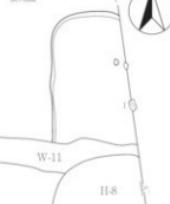
Fig.16 2区H-6・7号住居跡



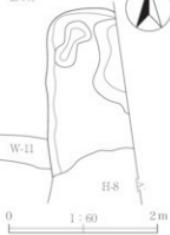
H-8



使用面



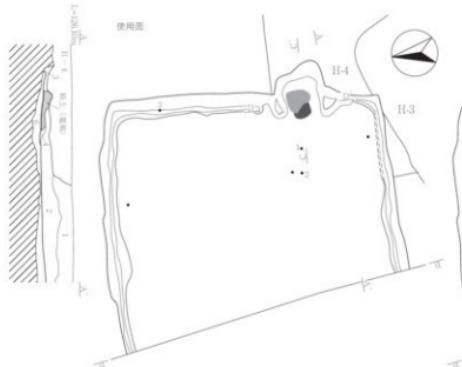
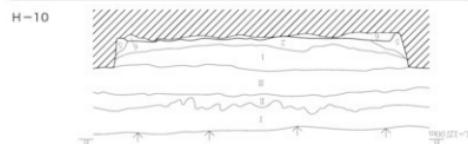
掘り方



2区H-9号住居跡SPA

- 黒褐色土 (10YR3/1) 線まりやや強く、粘性やや弱い。粗石・ローム・瓦片を多量含む。
- 黒褐色土 (10YR2/2) 線まりやや強く、粘性やや弱い。ローム粒を多量。粗石を少量含む。

H-10



掘り方

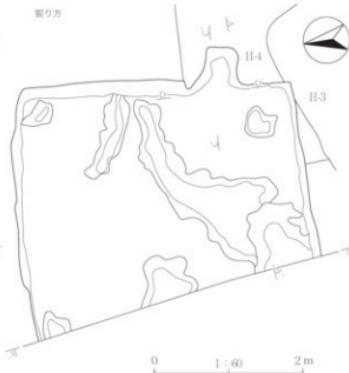


Fig.17 2区H-8~10号住居跡

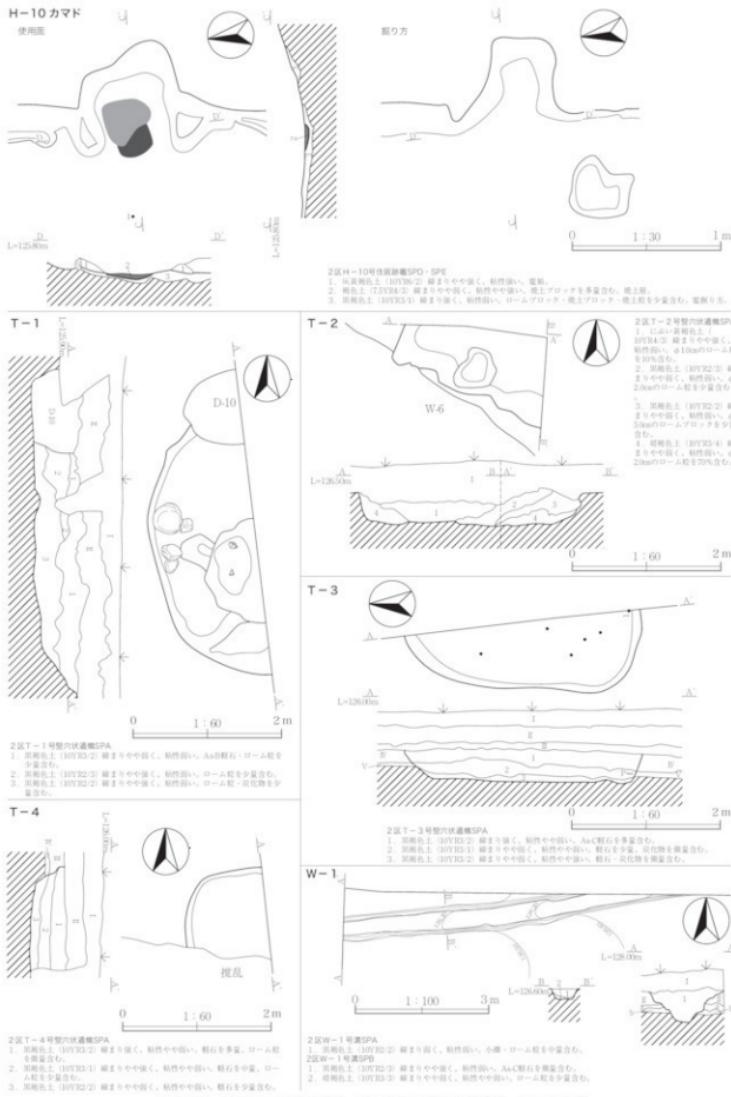


Fig.18 2区H-10号住居跡、T-1～4号堅穴状遺構、W-1号溝

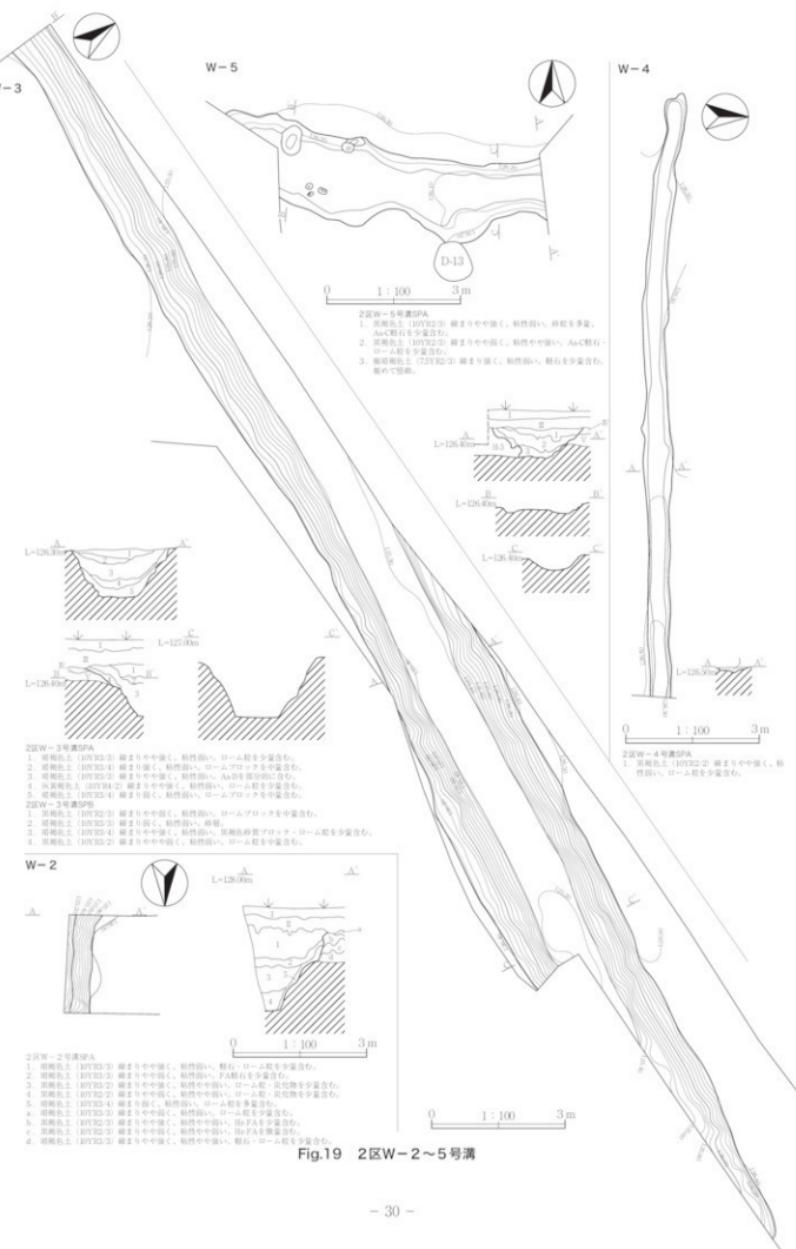


Fig.19 2区W-2～5号溝

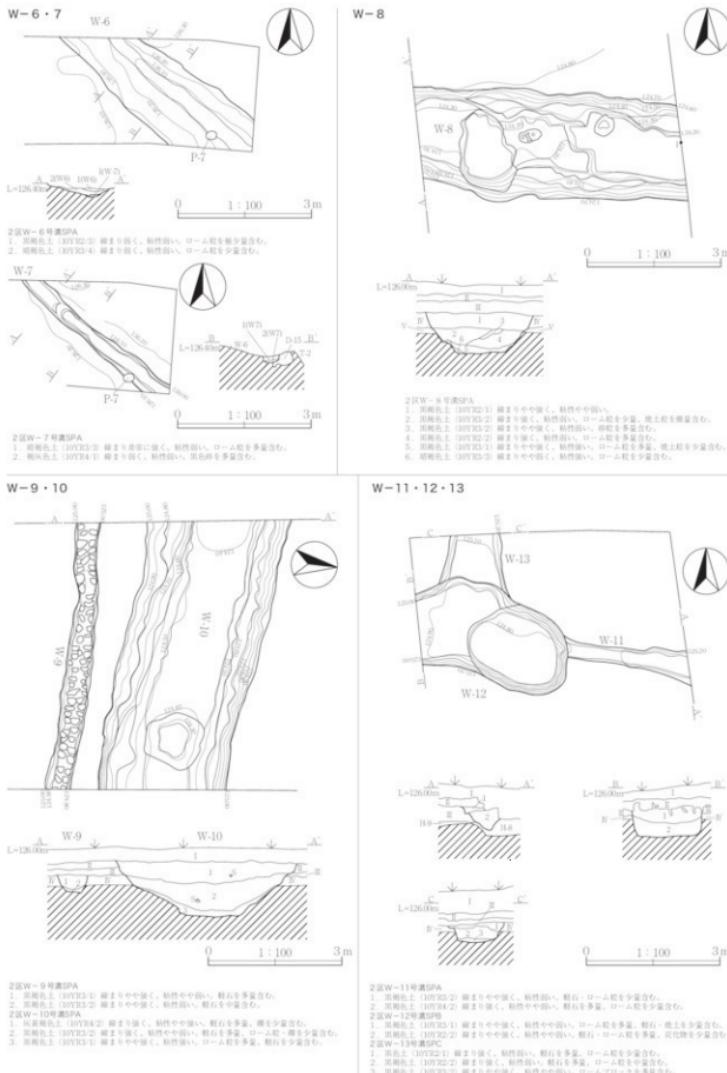


Fig.20 2区W-6～13号溝

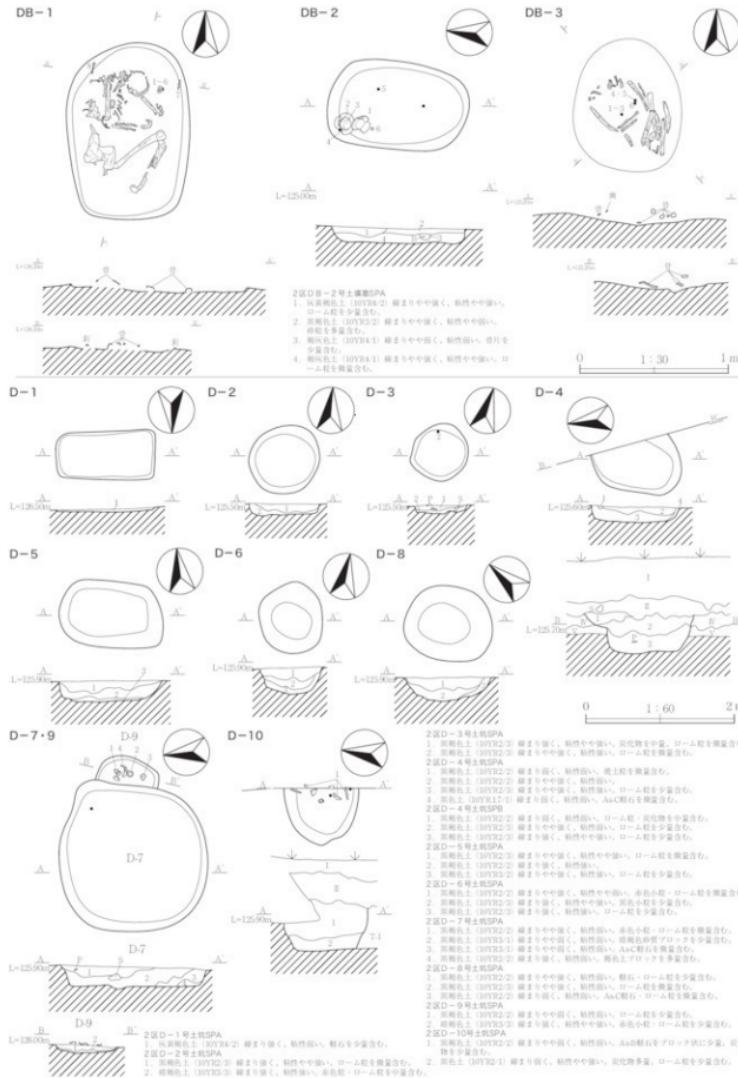
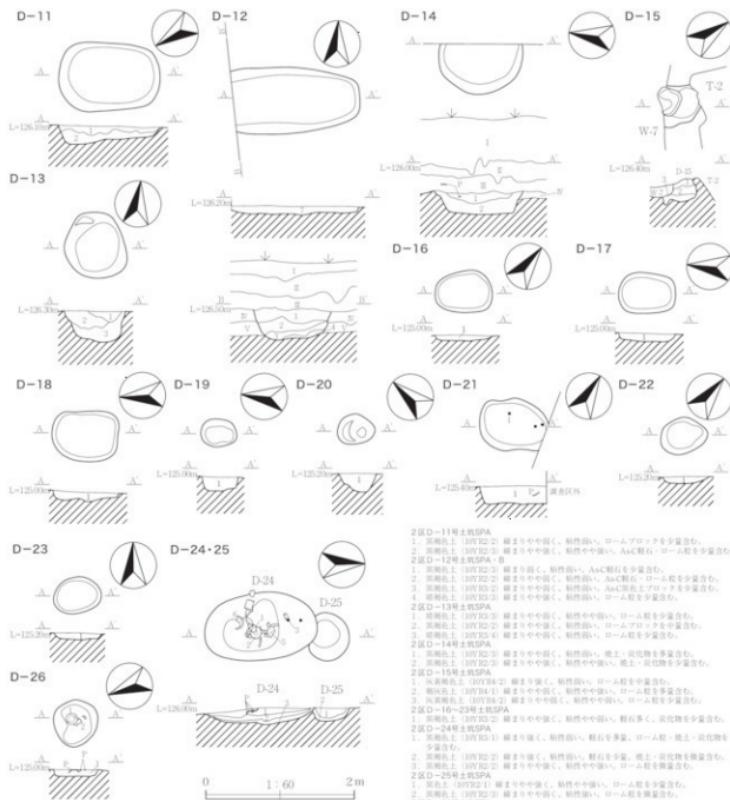


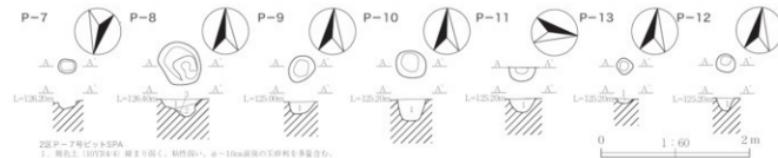
Fig.21 2区DB-1~3号土壤墓、D-1~10号土坑



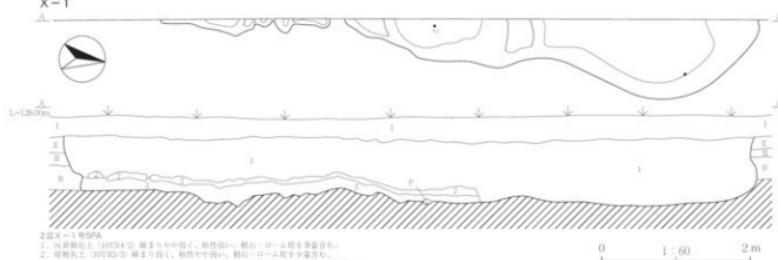
- 2区D-11号大坑SPA  
1. 黒褐色土 (126.22): 黒まりやや薄く、粘性弱い。ロームブロックを少箇含む。  
2. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
3. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
4. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
5. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
6. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
7. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
8. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
9. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
10. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
11. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
12. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
13. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
14. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
15. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
16. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
17. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
18. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
19. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
20. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
21. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
22. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
23. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
24. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
25. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。  
26. 黑褐色土 (126.22): 黑まりやや薄く、粘性弱い。As-C石・ローム粒を少箇含む。

- 2区P-1号ピットSPA  
1. 黒褐色土 (125.30): 黒まりやや薄く、粘性弱い。ローム粒を少箇含む。  
2区P-2号ピットSPA  
1. 黒褐色土 (125.30): 黒まりやや薄く、粘性弱い。ローム粒を少箇含む。  
2区P-3号ピットSPA  
1. 黒褐色土 (125.30): 黒まりやや薄く、粘性弱い。ローム粒を多箇含む。  
2. 黑褐色土 (125.30): 黑まりやや薄く、粘性弱い。ローム粒を少箇含む。  
2区P-4号ピットSPA  
1. 黑褐色土 (125.30): 黑まりやや薄く、粘性弱い。ローム粒を少箇含む。

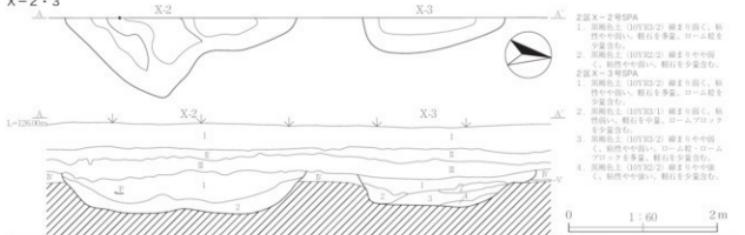
Fig.22 2区D-11~26号土坑、P-1~6号ピット



X-1



X-2・3



H-1

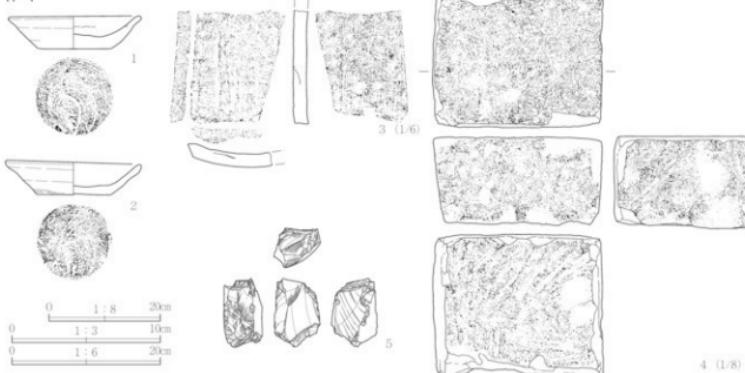


Fig.23 2区 P-7～12号ビット、X-1～3号跡、及びH-1号住居跡出土遺物

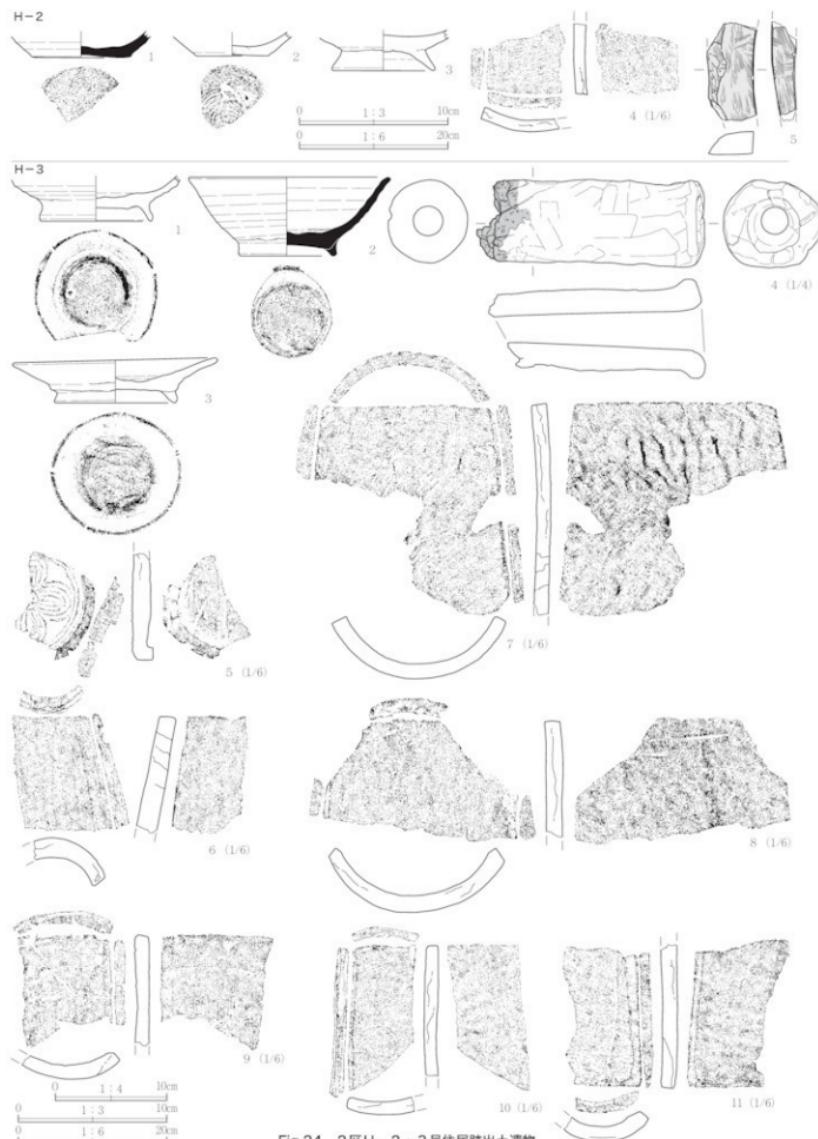


Fig.24 2区H-2・3号住居跡出土物

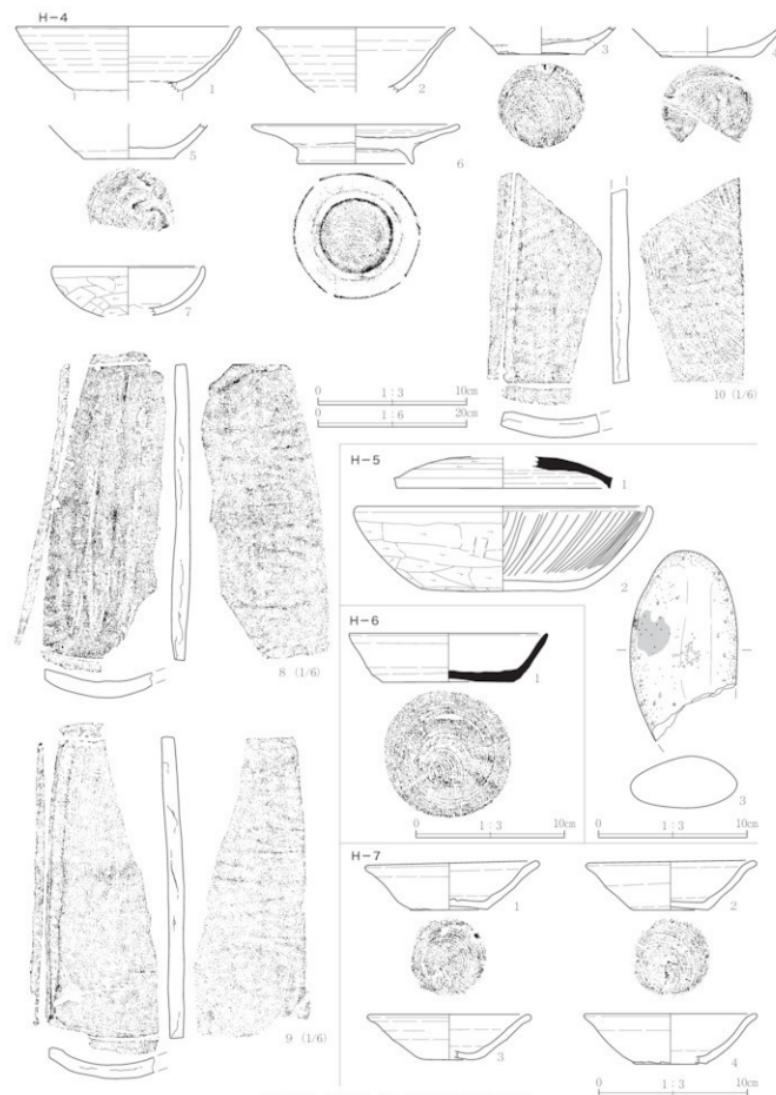


Fig.25 2区H-4~7号住居跡出土遺物

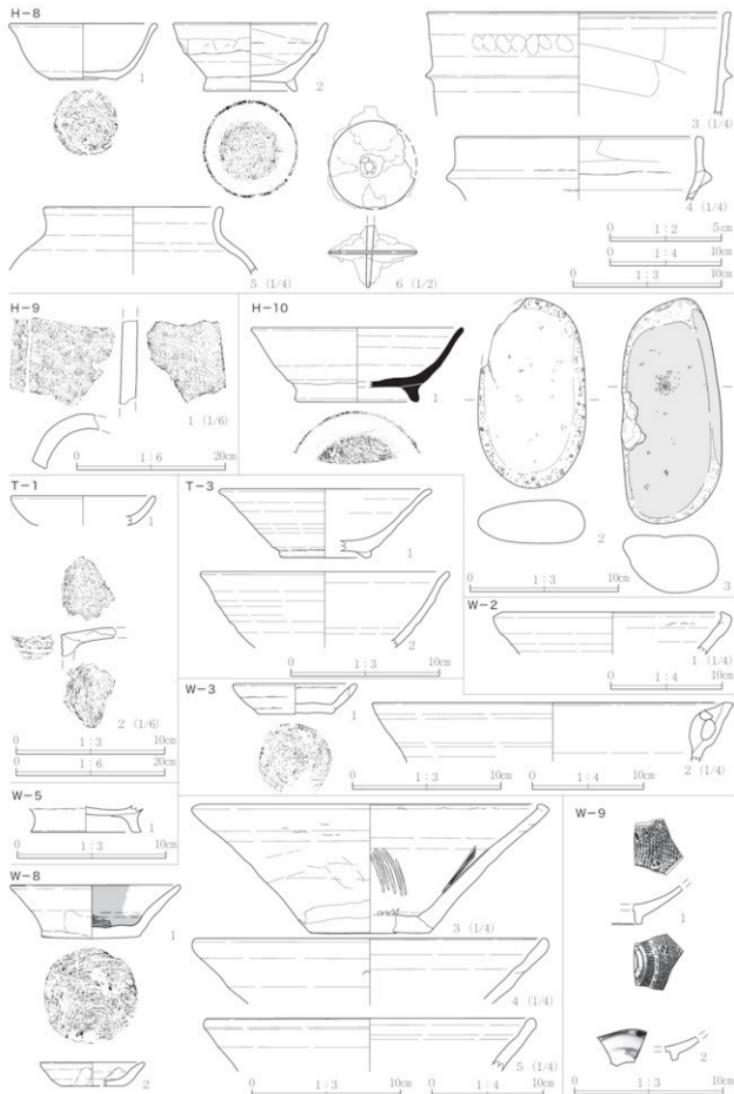
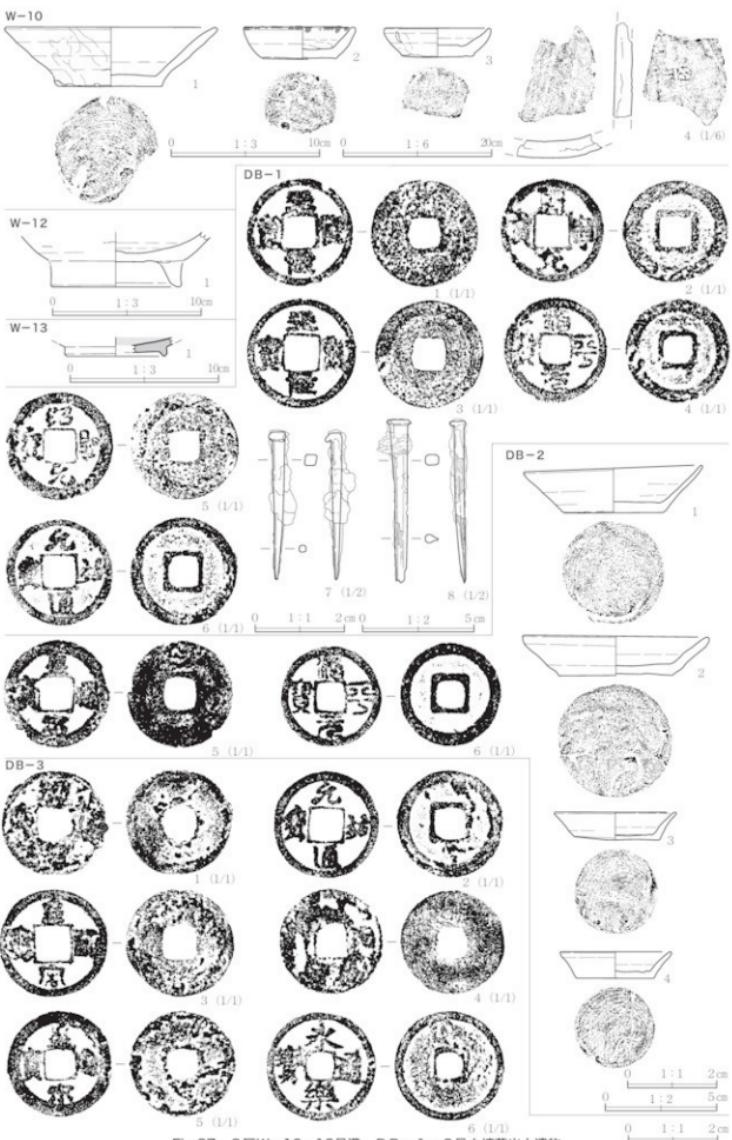


Fig.26 2区H-8~10号住居跡、T-1・3号竪穴状遺構、W-2・3・5・8・9号満出土遺物



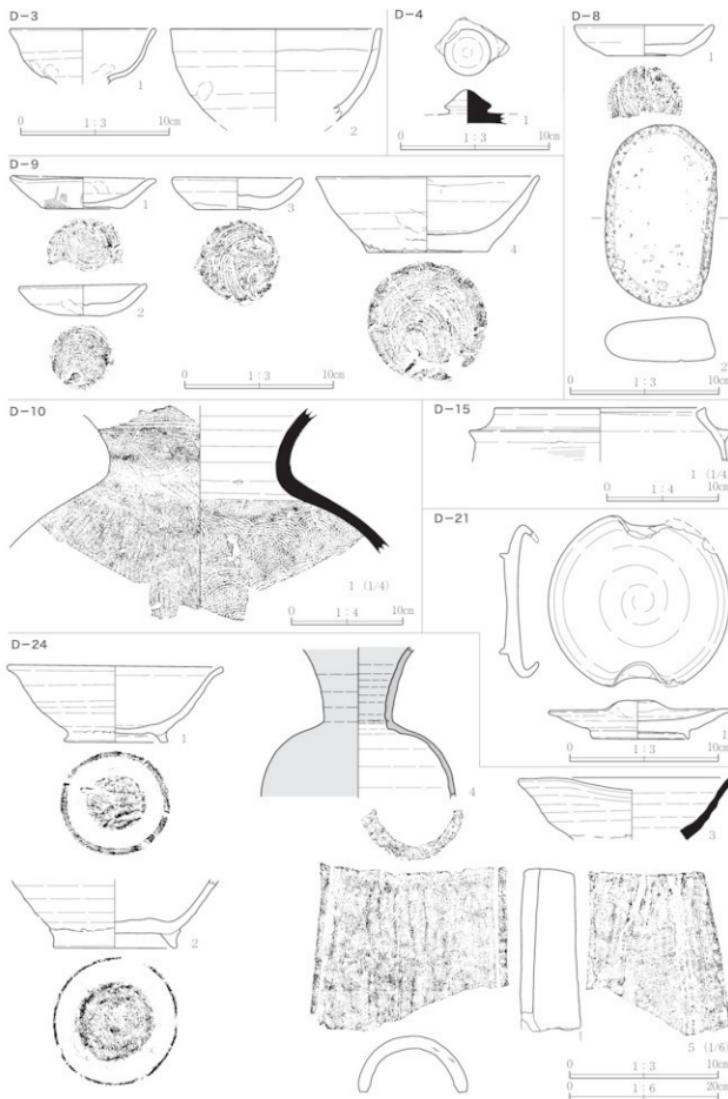


Fig.28 2区D-3·4·8·9·10·15·21·24号土坑出土遗物

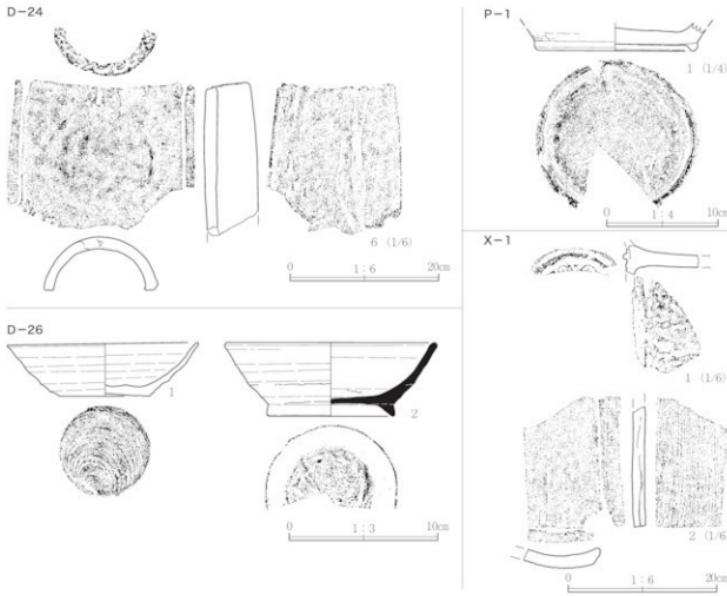


Fig.29 2区D-24・26号土坑、P-1号ビット、X-1号跡出土遺物

Tab.5 2区出土遺物観察表

H-1

番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴			所在地況、番号
									厚さ	底面	側面	
1 瓢	26号土坑	瓶形、片口	82	53	22	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、底面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
2 瓢	26号土坑	瓶形、片口	88	58	22	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、底面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴	所在地況、番号		
3 瓢	26号土坑	瓶形、片口	102	62	18	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、底面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴	所在地況、番号		
4 瓢	26号土坑	瓶形、片口	262	305	158	108	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、底面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
5 瓢	26号土坑	瓶形、片口	68	32	26	16	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、底面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁

H-2

番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴			所在地況、番号
									厚さ	底面	側面	
1 瓢	26号土坑	瓶形、片口	76	43	13	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
2 瓢	26号土坑	瓶形、片口	43	24	13	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
3 瓢	26号土坑	瓶形、片口	27	14	13	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴	所在地況、番号		
4 瓢	26号土坑	瓶形、片口	102	100	18	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴	所在地況、番号		
5 瓢	26号土坑	瓶形、片口	162	155	22	16	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁

H-3

番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴			所在地況、番号
									厚さ	底面	側面	
1 瓶	26号土坑	瓶形、片口	74	42	13	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
2 瓶	26号土坑	瓶形、片口	104	62	32	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
3 瓶	26号土坑	瓶形、片口	102	60	28	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、側面斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴	所在地況、番号		
4 瓶	26号土坑	瓶形、片口	86	49	32-34	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴	所在地況、番号		
5 瓶	26号土坑	瓶形、片口	100	52	32	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
番号	出土位置	種別、形態	口径 (cm)	直径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	底面	側面	断面、底、側面、文様等の特徴	所在地況、番号		
6 瓶	26号土坑	瓶形、片口	106	51	38	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
7 瓶	26号土坑	瓶形、片口	106	52	21	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
8 瓶	26号土坑	瓶形、片口	106	52	23	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁
9 瓶	26号土坑	瓶形、片口	106	52	21	13	内丸底、片口	無縫隙	内丸底斜面にカットメダリオ、	厚壁	厚壁	厚壁







## DB-2

番号	出土位置	種別、断面	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	動土	地成	色調	説明、成・型別、文様等の特徴	現存状況、備考
1	直上	手すり付	12.9	6.8	3.0	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	中千葉 中千葉	灰褐色 褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。 内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第一 前方部 上段第二 前方部
2	直上	手すり付	12.2	7.6	2.7	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	中千葉 中千葉	灰褐色 褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。 内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第三 前方部 上段第四 前方部
3	直上	手すり付	8.2	5.7	1.6	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	中千葉 中千葉	灰褐色 褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。 内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第五 前方部 上段第六 前方部
4	直上	手すり付	7.3	5.3	1.8	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	中千葉 中千葉	灰褐色 褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。 内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第七 前方部 上段第八 前方部

## DB-3

番号	出土位置	種別名	断面名	初期年代	晩期	口径(cm)	底径(cm)	厚さ(cm)	壁厚(cm)	底厚(cm)	重量(g)	備考
1	直上	手すり付	直角	203年	複数	26.0	7.0	1.0	1.0	0.5	22g	既存
2	直上	手すり付	直角	203年	複数	26.0	7.0	1.0	1.0	0.5	22g	既存
3	直上	手すり付	直角	203年	複数	26.0	6.0	1.0	1.0	0.5	22g	既存
4	直上	手すり付	直角	—	—	25.0	6.0	1.0	1.0	0.5	22g	既存
5	直上	手すり付	直角	203年	複数	25.0	6.0	1.0	1.0	0.5	22g	既存

## P-1

番号	出土位置	種別、断面	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	動土	地成	色調	説明、成・型別、文様等の特徴	現存状況、備考
1	直上	手すり付	—	—	14.0	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	中千葉 中千葉	灰褐色 褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。 内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	既存 既存
2	直上	手すり付	—	—	—	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	中千葉 中千葉	灰褐色 褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	既存
3	直上	手すり付	—	—	—	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	中千葉 中千葉	灰褐色 褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	既存
4	直上	手すり付	—	—	—	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	中千葉 中千葉	灰褐色 褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	既存

## 3 遺構外出土遺物 (Fig.30, Tab. 6)

表土掘削、及び遺構の平面プラン確認時に出土した遺物をここに集めた。接合作業後の破片数は繩文土器3点、打製石斧2点、円筒埴輪3点、土師器191点、須恵器118点、灰釉陶器5点、羽釜40点、土釜4点、瓦117点、かわらけ14点、在地系16点、常滑3点、瀬戸1点、美濃2点、瀬戸・美濃1点、肥前2点である。図示遺物はFig.30の1～7で、1は土師器甕、2は單弁蓮華紋の軒丸瓦、3～5はかわらけ、6・7は打製石斧である。

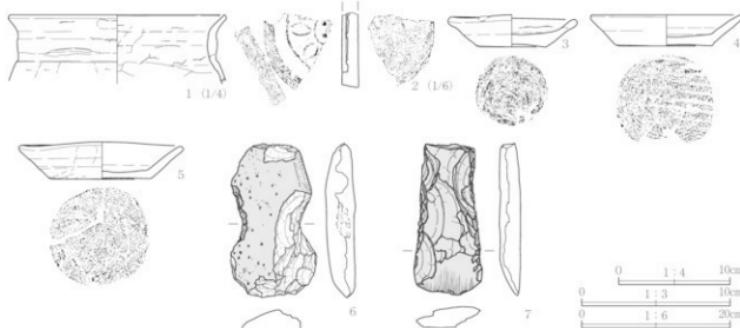


Fig.30 遺構外出土遺物

Tab.6 遺構外出土遺物観察表

番号	出土位置	種別、断面	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	動土	地成	色調	説明、成・型別、文様等の特徴	現存状況、備考
1	2区	土師甕	—	—	16.0	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	灰褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第一 前方部	
2	2区	土師甕	—	—	—	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	灰褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第二 前方部	
3	2区	土師甕	—	—	—	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	灰褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第三 前方部	
4	2区	土師甕	—	—	—	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	灰褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第四 前方部	
5	2区	土師甕	—	—	—	（1）直・横切面 （2）縦・横切面	灰褐色	内凹部・溝部カット、既にリヤにによるカッタグ、底部切欠きあり。	上段第五 前方部	
6	2区	打製石斧	20.4	5.8	2.0	板状	—	—	—	1428
7	2区	打製石斧	20.2	6.6	1.8	板状	—	—	—	3658



## VI まとめ

今回の調査では奈良・平安時代～中世・近世に亘る遺構を確認し、縄文時代以降の多種・多様な遺物を検出することができた。ここでは、本調査で確認した主要な遺構を、時期別に分けて概観・検討し、まとめとしたい。

### ・縄文～古墳時代

今回の調査では、この時期に該当する遺構は確認されていないが、縄文土器の深鉢（加曾利 E 3式期）小片12点と石斧2点が出土し、また、古墳時代の遺物としては円筒埴輪の小片10点が確認されている。

### ・奈良・平安時代

律令期に該当する堅穴住居跡は8軒（1区：H・2・4・7・8、2区：H・4・5・6・10）を確認している。出土遺物の様相から8世紀後半～9世紀後半の時期が主体であり、2区：H・6以外は標高125.50～126.00mに分布している。主軸方向はN・83°・E～N・98°・Eを示し、南北軸の規模は8世紀後半では4.00mを越えるが、9世紀代になると3.00m程度となる。竈は東壁のやや南寄りに付設され、構築材として主に粘土を使用しており、瓦の使用は確認されていない。

律令期以後としては堅穴住居跡は9軒（1区：H・1・3・5・2区：H・1・2・3・7・8・9）が該当する。標高125.00～126.00mに分布し、時期は10世紀前半～11世紀代と想定される。主軸方向はN・82°・E～N・153°・E、南北軸の規模は3.25～4.32mを測り、バラつきが認められる。竈は東壁南寄りに付設され、構築材として、粘土、川原石、礫の他に瓦の使用が確認されている。また、10世紀代の遺構としては2区北部で確認された溝のW・5・6・7が挙げられる。いずれも部分的な確認で詳細不明であるが、W・6・7については同一の遺構と考えられ、底面の硬化の様相から、通路として機能していた可能性が高い。

### ・中世

中世の遺構としては2区の溝（W2・3・8）、土壤墓（DB・1・2・3）、土坑（D・8・9）が挙げられる。W・3とW・8は東西に走行し、主軸方向はN・80～86°・Wで、ともに断面逆台形状を呈し、上幅2.50m前後、深さ1.00m前後の比較的大規模な溝である。W・2は詳細不明ではあるが、W・3・8と同じような規模・構造を有し、両溝と直交方向に走行するものとなろうか。3条が同時期に機能していたかは不明であるが、土地の区画に大きく関わる遺構といえる。いずれの溝からも近世以降の遺物は出土しておらず、15～16世紀代の時期を考えている。因みにW・3とW・8の芯～芯距離は94.00mを測る。土壤墓は3基検出しているが、散発的な分布状況を示しており、墓坑群を形成するには至っていない。墓域の中心ではなく、その周縁といったところであろうか。墓坑の形態や葬位の類似から15世紀を中心とした時期の遺構である。土坑のD・8・9はほぼ南北に隣接した位置から検出され、出土したかわらけから14～15世紀の時期を考えている。

### ・近世以降

近世以降では2区の溝（W・1・4・9・10・11・12）、堅穴状遺構（T・1・4）、土坑（D・10）、その他（X・1）が挙げられる。W・10以外の溝は、上幅1.65m以下の小規模なもののが主体であり、W・9からは近代の遺物が出土している。T・1、D・10は出土遺物、及び重複関係から17世紀前半頃を想定しているが、他の遺構の中には近代に帰属するものが含まれている可能性もある。

最後に、今後も継続して実施される元総社蒼海跡群の発掘調査により、上野国府や蒼海城、さらに周辺集落との関係が解明していくことを期待し、結びとしたい。



PL.1



1. 1区 全景（西から）



2. 2区 西部全景（東から）



3. 2区 東部全景（東から）



4. 2区 北部全景（北から）



5. 2区 北部スナップ（北から）



6. 2区 北部スナップ（南から）



7. 2区 南部全景（北から）



8. 2区 南部全景（南から）



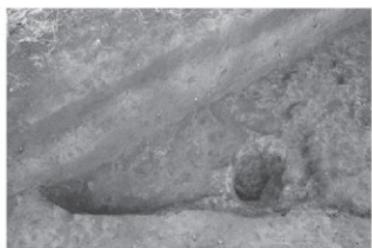
PL.2



1. 1区 H-1 (西から)



2. 1区 H-2 (西から)



3. 1区 H-3 (西から)



4. 1区 H-4 (西から)



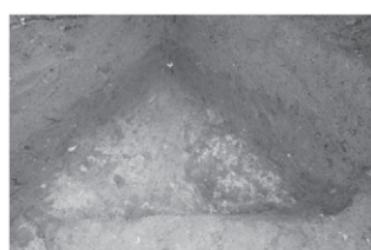
5. 1区 H-5 (西から)



6. 1区 H-6 窓 (東から)



7. 1区 H-7・8 (西から)



8. 1区 T-1 (北東から)



PL.3



1. 2区 H-1 (西から)



2. 2区 H-1 窟 (西から)



3. 2区 H-2 (北西から)



4. 2区 H-2 窟A (北西から)



5. 2区 H-2 窟B (北西から)



6. 2区 H-5 (西から)



7. 2区 H-3 (北西から)



8. 2区 H-3 窟 (北西から)



PL.4



1. 2区 H-4 (西から)



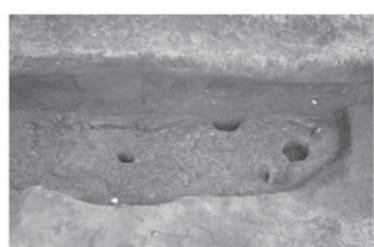
2. 2区 H-4 窓 (西から)



3. 2区 H-7 (西から)



4. 2区 H-7 窓 (西から)



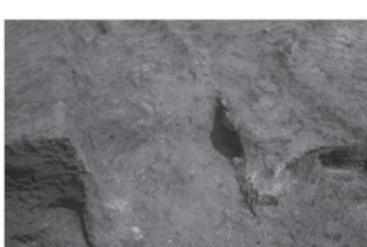
5. 2区 H-8 (西から)



6. 2区 H-9 (西から)



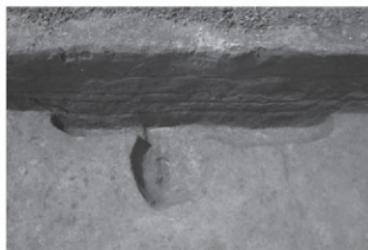
7. 2区 H-10 (西から)



8. 2区 H-10 窓 (西から)



PL.5



1. 2区 H-6 (東から)



2. 2区 X-1 (北から)



3. 2区 X-2 (北東から)



4. 2区 X-3 (北東から)



5. 2区 T-1 (西から)



6. 2区 T-2 (北から)



7. 2区 T-3 (西から)



8. 2区 T-4 (西から)



PL.6



1. 2区 W-1 (西から)



2. 2区 W-2 (北から)



3. 2区 W-3 (西から)



4. 2区 W-4 (東から)



5. 2区 W-5 (東から)



6. 2区 W-6 (南東から)



7. 2区 W-7 (南東から)



8. 2区 W-8 (東から)



PL.7



1. 2区 W-9 (東から)



2. 2区 W-10 (東から)



3. 2区 W-11・12・13 (東から)



4. 2区 W-12・13 (東から)



5. 2区 DB-1 (南から)



6. 2区 DB-2 (南から)



7. 2区 DB-3 (南から)



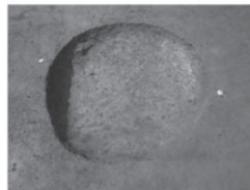
8. 2区 DB-1 作業風景 (東から)



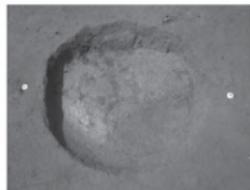
PL.8



1. 2区 D-1 (北から)



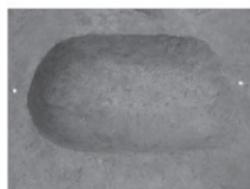
2. 2区 D-2 (西から)



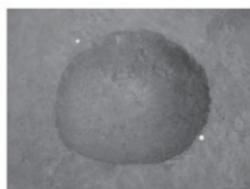
3. 2区 D-3 (南から)



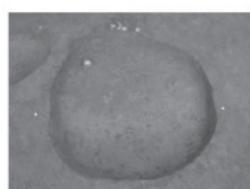
4. 2区 D-4 (南から)



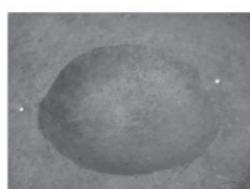
5. 2区 D-5 (南から)



6. 2区 D-6 (西から)



7. 2区 D-7 (西から)



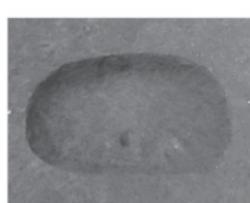
8. 2区 D-8 (北から)



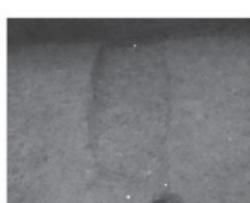
9. 2区 D-9 (南から)



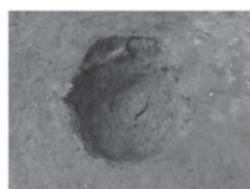
10. 2区 D-10 (西から)



11. 2区 D-11 (南西から)



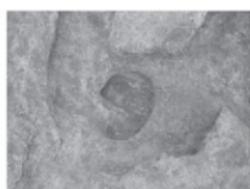
12. 2区 D-12 (東から)



13. 2区 D-13 (南から)



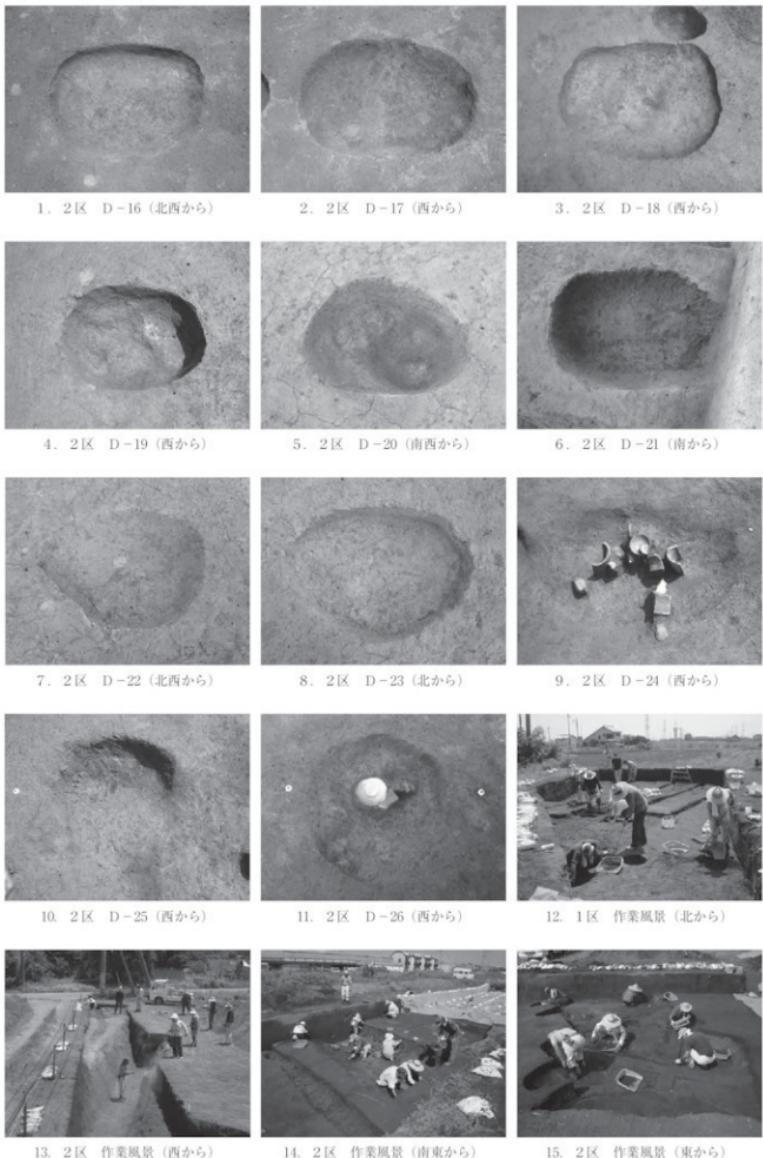
14. 2区 D-14 (西から)



15. 2区 D-15 (東から)



PL.9





PL.10





PL.11





PL.12





## 報告書抄録

フリガナ	モトツウジャオウミイセキダン (34)							
書名	元総社蒼海遺跡群 (34)							
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海地区面整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書							
巻次	-							
シリーズ名	-							
シリーズ番号	-							
編著者名	神宮 駿・瀬田哲夫							
編集機関	技研測量設計株式会社							
編集機関所在地	〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1-15-3							
発行機関	前橋市教育委員会							
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2							
発行年月日	2011年3月11日							
ふりがな	ふりがな	コード	位置		調査期間	調査面積	調査原因	
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
元総社蒼海遺跡群 (34)	前橋市元総社町 1694-1ほか	10201	22A130-34	36°23'41"	139°01'32"	20100709 20100910	805m <sup>2</sup> 前橋都市計 画事業元 総社蒼海 地区面整 理事業に 伴う埋蔵 文化財発 掘調査報 告書	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
元総社蒼海遺跡群 (34)	集落 その他	奈良・平安時代 中近世	住居跡 溝跡 土塙墓 土坑 ピット 堅穴状遺構 その他	18軒 13条 3基 26基 14口 5基 3基	土師器 須恵器 灰釉陶器 石製品 鉄製品 銅鏡 かわらけ 他	奈良・平安の集落遺跡		

## 元総社蒼海遺跡群 (34)

前橋都市計画事業元総社蒼海地区面整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

発行  
編集  
印刷

2011年3月4日 印刷  
2011年3月11日 発行

前橋市教育委員会文化財保護課  
〒371-0018 群馬県前橋市三保町2-10-2  
TEL 027-231-0531  
技研測量設計株式会社  
朝日印刷工業株式会社









